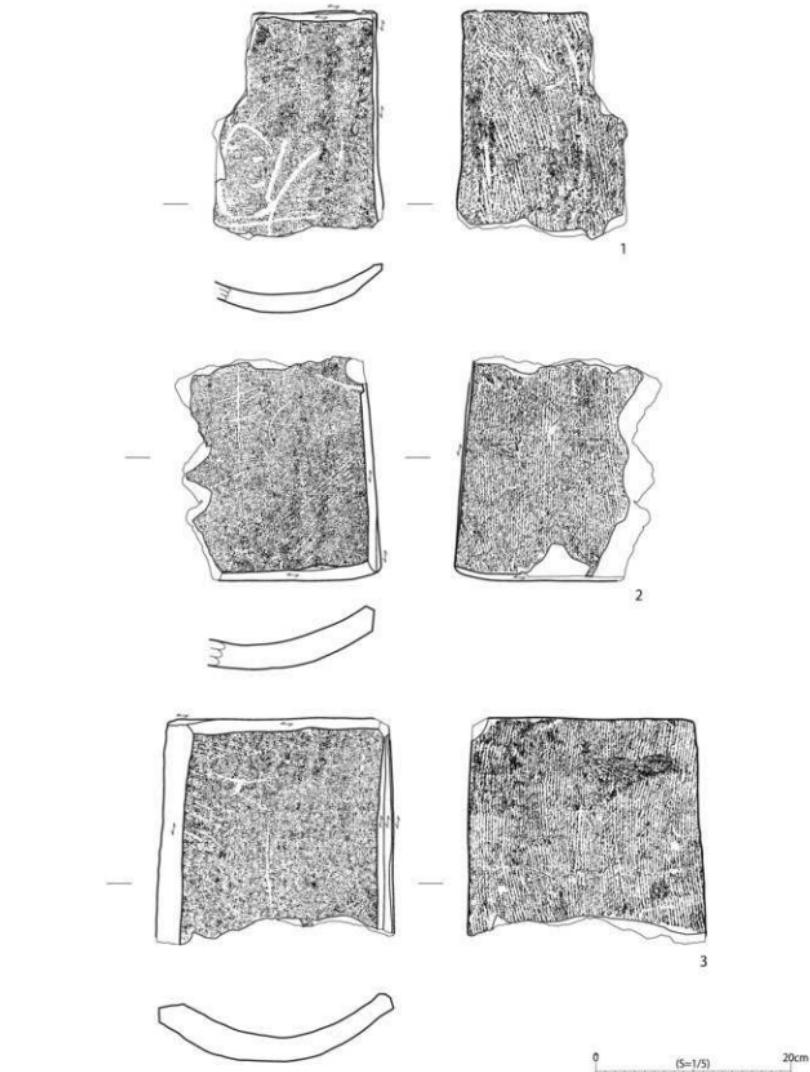


第32図 1号窯跡出土遺物(10)

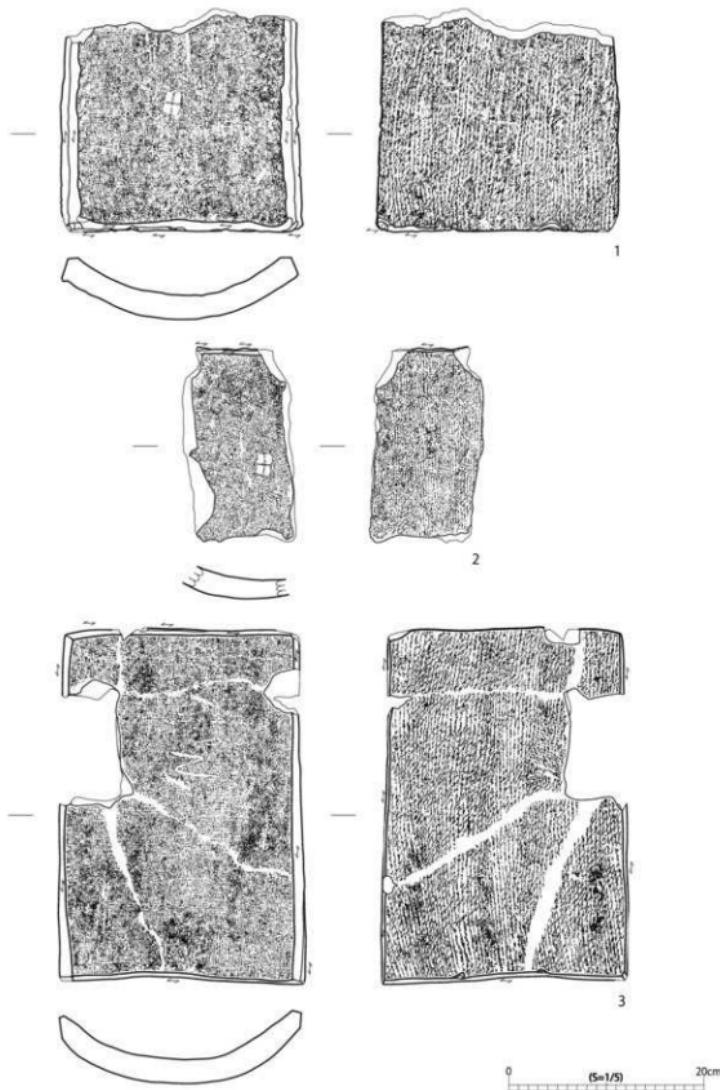
別6層:B期の前庭部・灰原に広がる炭化物を多量に含む層(以下、本章ではこの種の層位を燃料残滓層と称する)。大別7層:A期の燃焼部・前庭部・灰原に広がる燃料残滓層。

**【灰原】** 前庭部の範囲と、ほとんど重なる。範囲は長さ4.2m、幅2.8m、厚さ10cmである。上層・下層で炭化物の相違が認められた。上層は堆積層で把握した大別4・6層に相当し、4層は窯体からの流出堆積層であり、6層はB期の燃料残滓層である。下層は大別7層に相当し、A期の燃料残滓層である。A・B期の中間には窯体から続く流出堆積層が認められる。

**【排水溝(2号溝)】** 窯跡の周囲には2号溝が窯体の西側から北側を通り、東側から緩やかに曲がって南南西に延び

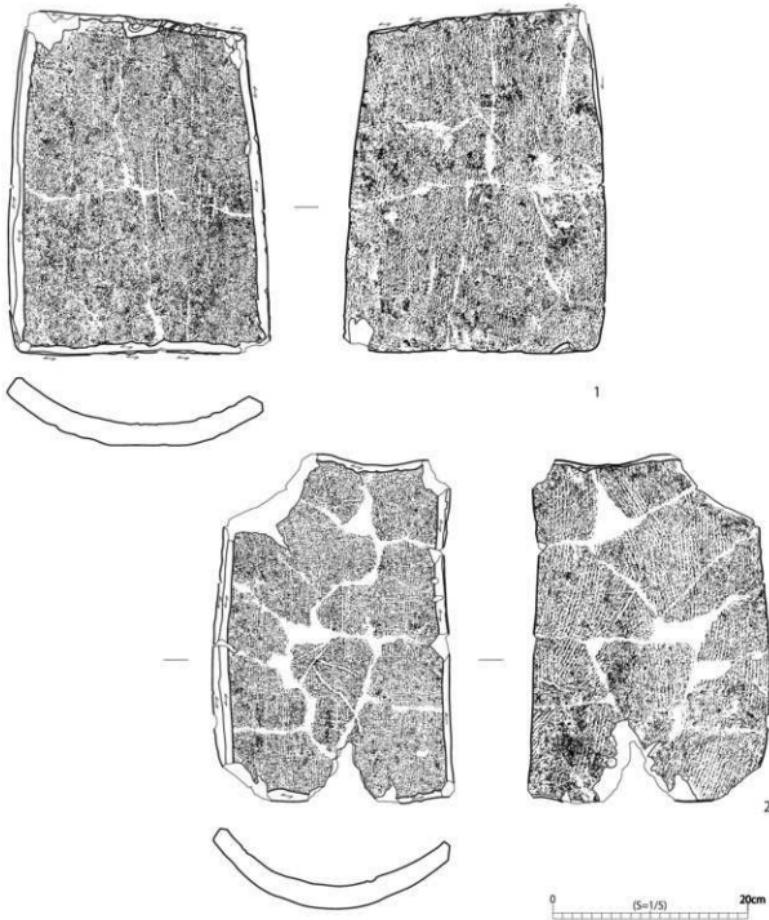


第33図 1号窯跡出土遺物(11)



第34図 1号窯跡出土遺物(12)

番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 [cm]	正面幅 [cm]	側面幅 [cm]	厚さ [cm]	其当面 厚さ [cm]	反面厚 [cm]	色調	成形・調物・備考		写真 番号
											内面	外面	
1号窯跡 実測	7	平瓦	22.8+	23.4	-	2.6	-	-	-	内面：10YR 5/1 外面：7.5YR 5/1	内面：斜切り底一帯目盛 外面：側面・正面底ハラケズリ・正面神状状面	内面：神印Ⅱ	G-023 5-3 98
2号窯跡 実測	7	平瓦	19.9+	-	6.8+	2.3	-	-	-	内面：SYR 5/1 外面：7.5YR 5/1	内面：布目縞一帯ナデ 外面：斜面底ハラケズリ	内面：神印Ⅱ	G-024 5-4 98
3号窯跡	4	平瓦	36.5	25.1	23.7	2.6	-	-	-	内面：7.5YR 7/2 外面：7.5YR 6/3	内面：布目縞一帯ナデ 外面：神印Ⅱ 説明：ヘラ書き [Z]	内面：ヘラ書き [Z] 外面：ヘラ書き [Z]	G-025 5-5 102



第35図 1号窯跡出土遺物(13)

ている。本窯跡に伴う排水溝と考えられる。溝の規模は、場所によって大きく異なっている。1号窯跡の西側から北側では幅2.2～5.2mで、深さは検出面から30～65cmである。東側では、幅1.3～2.0mで、深さは0.8～1.1mである。南南西の調査区外に延びる部分では、幅20～35cmで、深さは10～30cmである。底面に凹凸は認められず、屈曲する部分から西側と南側へ傾斜している。堆積層は、細別7層を確認した。すべて周囲からの流入堆積層で、6層は焼土を主体とする。

**【出土遺物】** 丸瓦・平瓦・棟平瓦・鬼瓦及び、須恵器・土師器・石製品（磁石）が出土している。総破片数

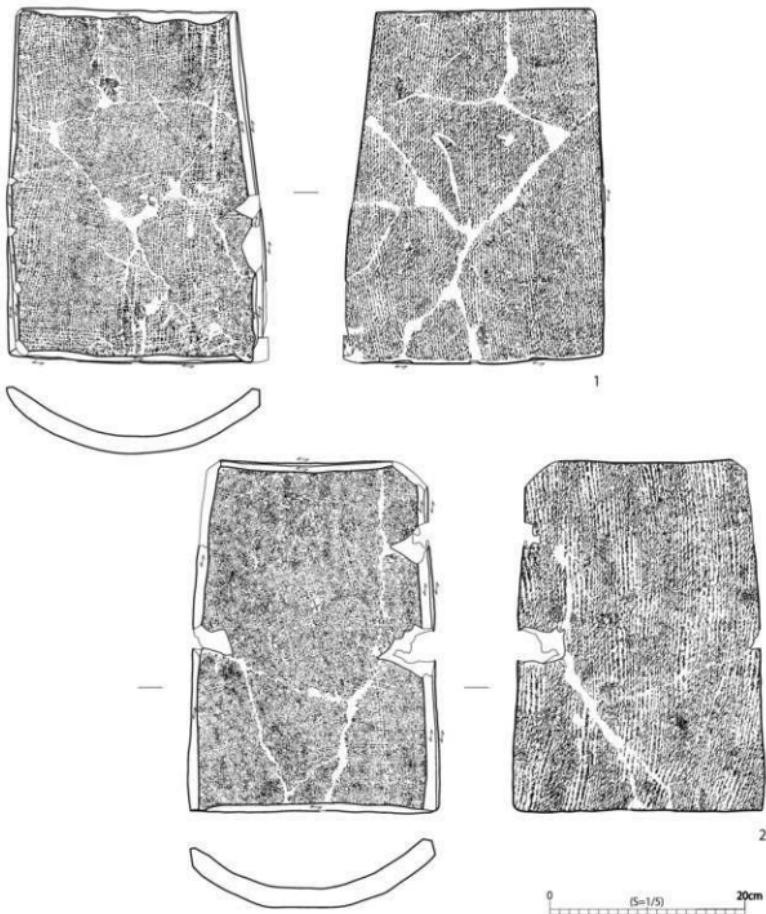


第36図 1号窯跡出土遺物(14)

は3821点で、80点を図示した。大別1～3・6・7・10層から丸瓦・平瓦、大別4層から平瓦、大別5層から丸瓦・平瓦・棟平瓦・土師器、大別8層から丸瓦・平瓦・土師器が出土している。大別9層と床面直上から、遺物は出土していない。排水溝から丸瓦・平瓦・鬼瓦及び、土師器・石製品（砥石）が出土している。I層は平瓦、3層は丸瓦、4層以下は平瓦を主体とする。

#### 【整地層・Ⅲ層黒色化部分の調査】(第18・19図)

窯跡は現状保存となり、整地層・Ⅲ層黒色化部分の調査では窯体を断ち割っていない。窯体を保存するために都市計画道路の設計が変更され、本窯跡付近に橋脚が設置されることになり、窯体周囲の土層の調査を実施したが、

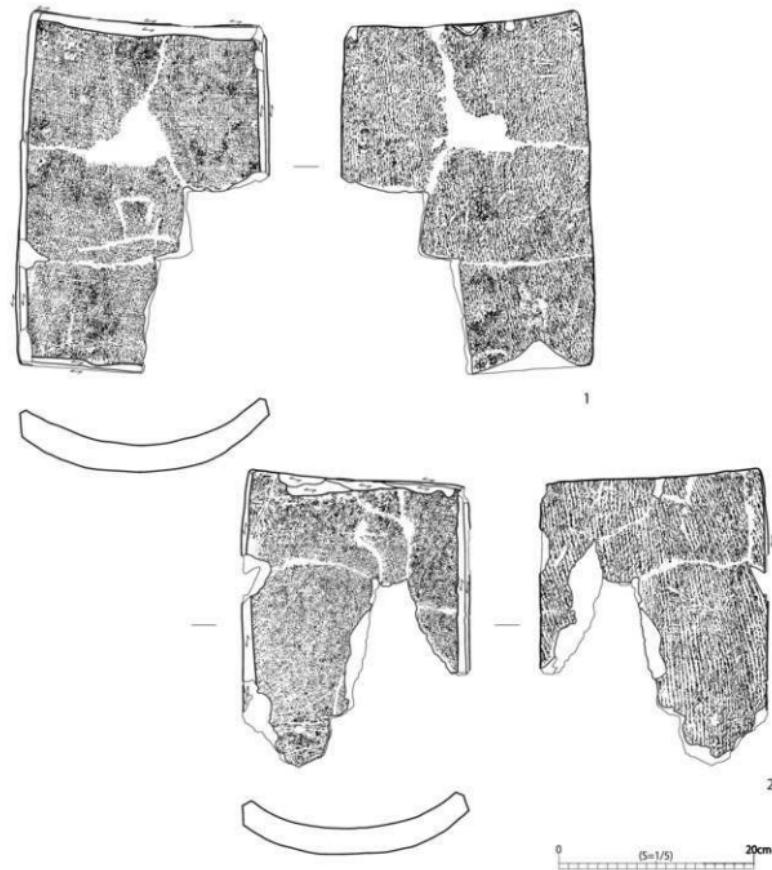


第37図 1号窯跡出土遺物(15)

工事による影響を受けるⅢ層被熱範囲の外側のみを調査対象としたため、窯体・掘方・整地層・Ⅲ層黒色化部分相互の関係は明確には把握できなかった。

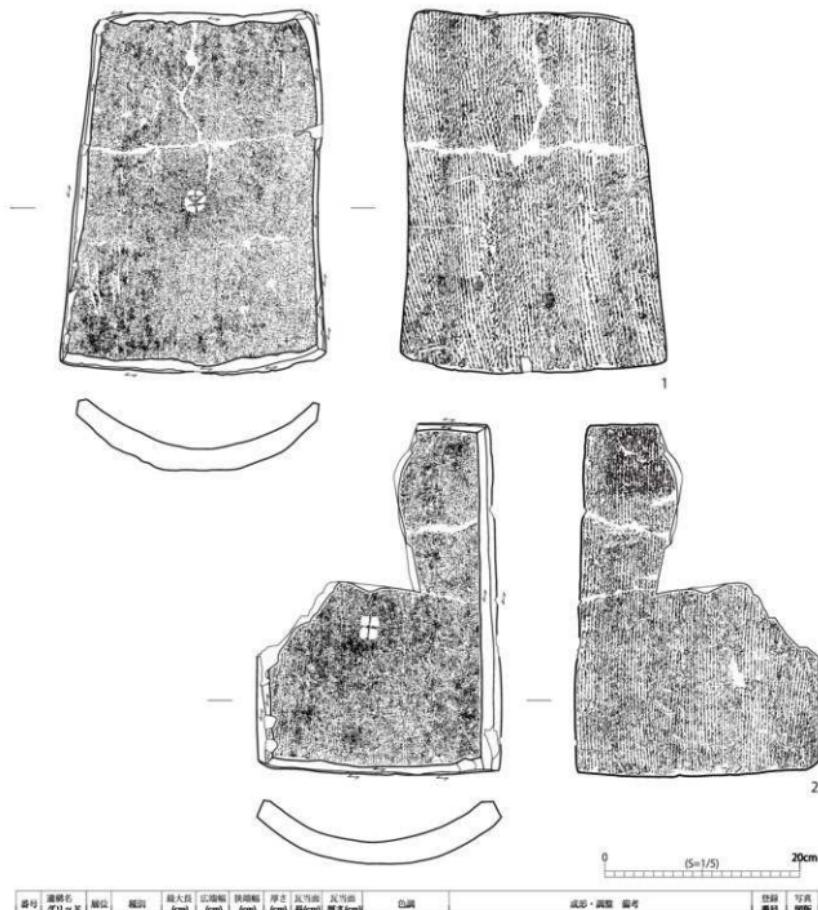
橋脚は窯体の東側と西側に敷設されることから、橋脚間の南側を除く三方に①～③トレンチ、焼成部から前庭部を通す中軸延長線上に④トレンチ、②・③トレンチにそれぞれ直交する⑤・⑥トレンチ、焼成部・隔壁部・燃焼部に直交する南北方向に⑦～⑨トレンチを設定した。整地層Eは、トレンチを設定せず単体で調査した。

①トレンチ：整地層Bと、その下部のⅢ層黒色化部分を確認した。



第38図 1号窯跡出土遺物(16)

- ②トレンチ：整地層Dと、その下部のⅢ層黒色化部分を確認した。
- ③トレンチ：整地層Aと、その下部のⅢ層黒色化部分を確認した。
- ④トレンチ：整地層B・Fと、その下部のⅢ層黒色化部分を確認した。
- ⑤トレンチ：Ⅲ層黒色化部分を確認した。
- ⑥トレンチ：Ⅲ層黒色化部分を確認した。
- ⑦トレンチ：整地層D・F・Gと、その下部のⅢ層黒色化部分を確認した。
- ⑧トレンチ：整地層D・F・Gと、その下部のⅢ層黒色化部分を確認した。
- ⑨トレンチ：整地層Gと、その下部のⅢ層黒色化部分を確認した。



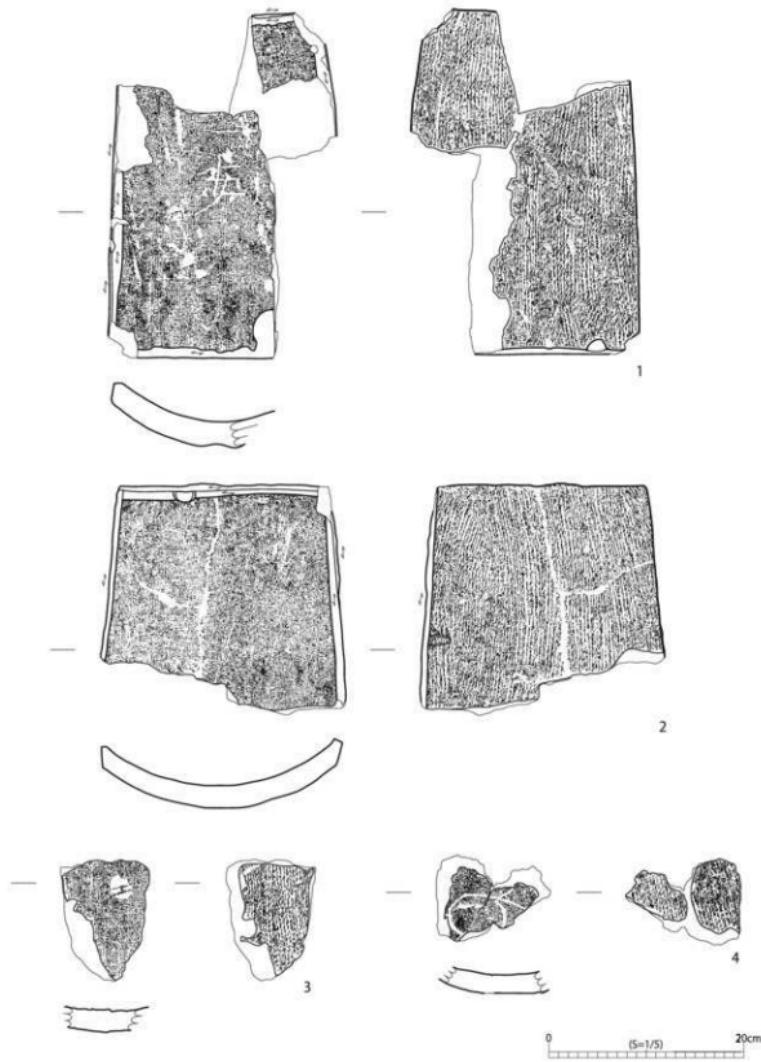
第39図 1号窯跡出土遺物(17)

**整地層 A**：範囲は、長軸 1.1m、短軸 80cm、厚さ 10cm の不整形である。下面是ほぼ平坦である。明黄褐色砂質シルトの單一層で、Ⅲ層を覆う。

**整地層 B**：範囲は、長軸 4.7m、短軸 1 m、厚さ 10cm の不整長楕円形である。下面是ほぼ平坦である。明黄褐色砂質シルトの單一層で、Ⅲ層黒色化部分を覆う。

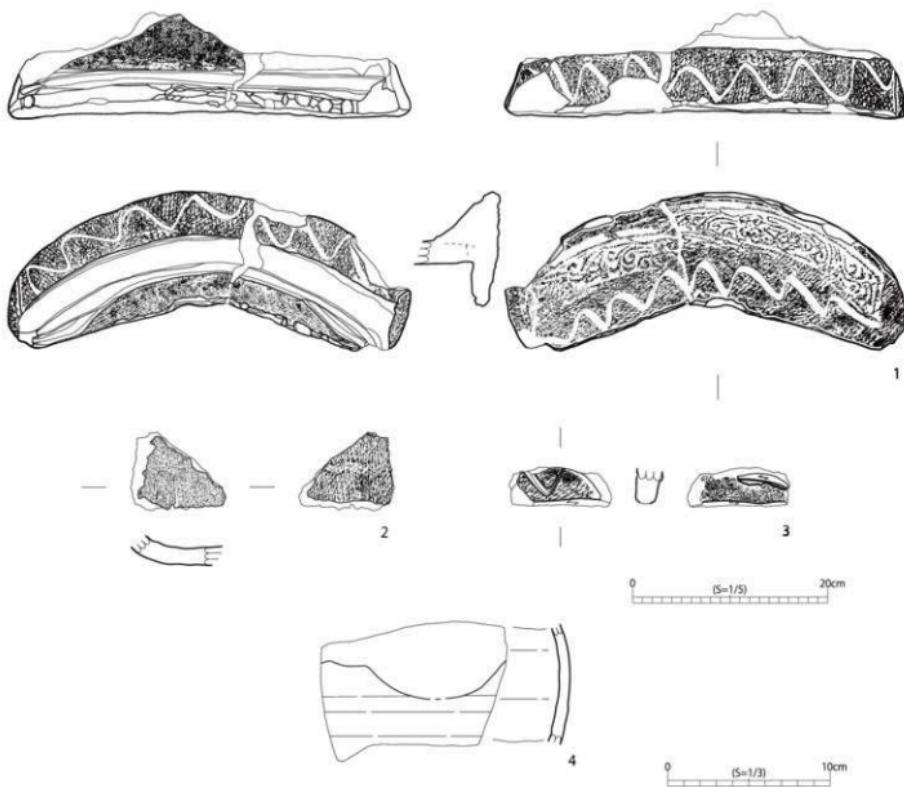
**整地層 C**：平面でのみ確認した。範囲は、長軸 2.1m、短軸 50cm の不整形である。にぶい黄褐色砂質シルトの層でⅢ層を覆う。

**整地層 D**：前庭部と重複する部分は、その堆積層下で確認した。範囲は、長軸 6.8m、短軸 4.7m、厚さ 10 ~



番号	遺物名 グリッド	層位	縦剖 面	横長 (cm)	正面幅 (cm)	側面幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考			目録 番号	写真 番号
											凹面	凸面	備考		
1	1号窓跡	I	平瓦	35.4	14.5 (20.9)	4.3	2.7	-	-	鉄青	布目模十一部ナデ	梅印き→一部ナデ	凹面: ヘラ書き「安」 側面: ヘラ書き「×」	G-036	9-2 104
2	2号窓跡	I	平瓦	23.8+	-	21.3	2.3	-	-	鉄青	N 4/0	ヘラ書き→側面、扶桑面注版	凹面: ヘラ書き「×」	G-037	9-3 104
3	3号窓跡	I	平瓦	12.4+	9.2+	-	2.4	-	-	鉄青	S 7/1	布目模→一部ナデ	凹面: 梅印	G-038	9-4 99
4	4号窓跡	I	平瓦	8.8+	11.8+	-	1.9	-	-	鉄青	S 7/2	布目模 側面: 梅印	凹面: ヘラ書き「子」	G-039	9-5 105

第40図 1号窓跡出土遺物(18)

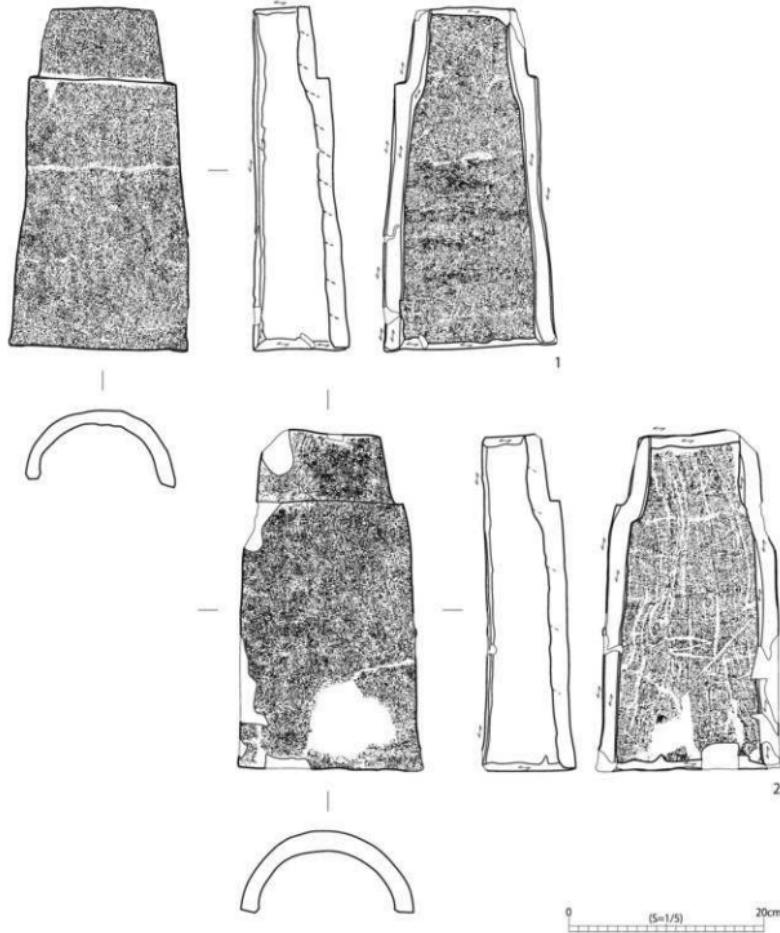


第41図 1号窯跡出土遺物(19)

30cmの不整形である。下面はほぼ平坦である。にぶい黄褐色砂質シルトの単一層で、Ⅲ層黒色化部分を覆う。

**整地層 E :** 前底部の堆積層下で確認した。範囲は、長軸 1m、短軸 80cm、厚さ 10cm の不整形である。下面には凹凸がみられる。にぶい黄褐色砂質シルトの単一層で、Ⅲ層黒色化部分を覆う。

**整地層 F :** 範囲は、長軸 5.9m、短軸 50cm、厚さ 20 ~ 50cm の不整形である。下面にはやや凹凸がみられる。明黄褐色砂質シルトと褐色砂質シルトの互層からなり、5 層に細分され、下層はⅢ層黒色化部分およびⅢ層となる。断面の形状から 1号窯跡の掘方埋土、およびその上層の整地層である可能性がある。



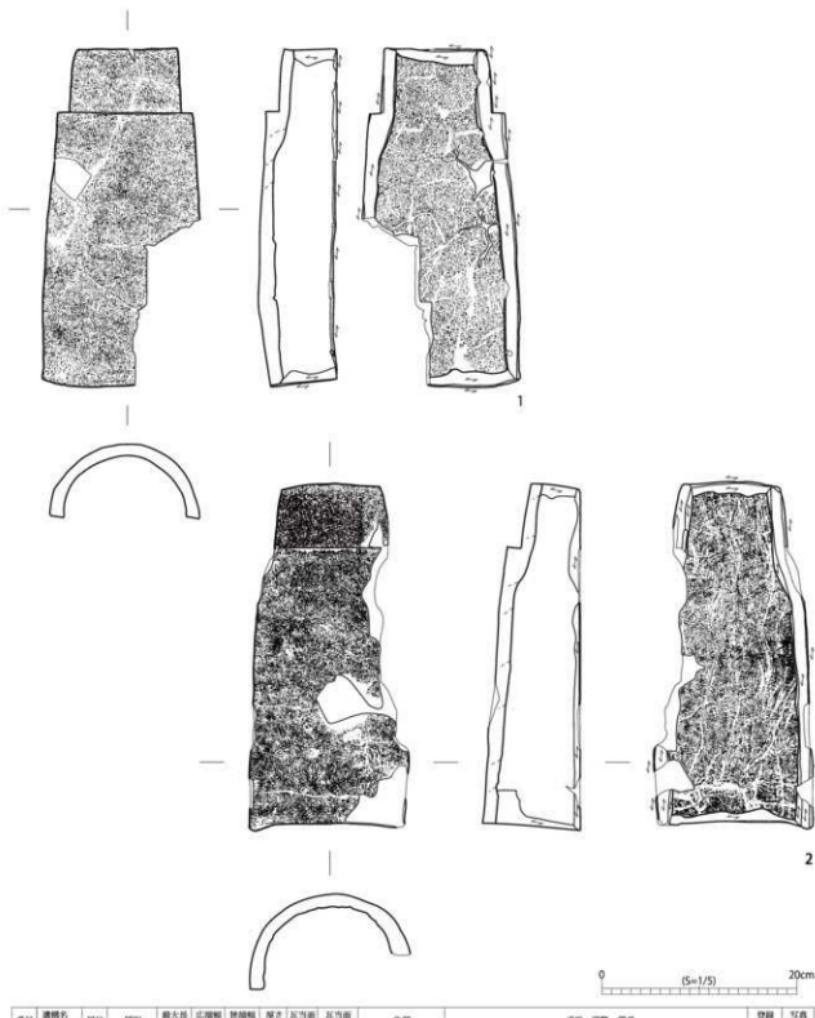
番号	遺物名 リップ	断面	種別	最大長 (cm)	正面幅 (cm)	背面幅 (cm)	厚さ (cm)	真背面 (cm)	真当面 (cm)	色調	成形・調整 稼考		登録 番号	写真 番号
											前面：輪上鉢底→新日赤→スピナデ	背面：輪明き→ロクロナデ		
1	排水溝(SD2)	3	丸底	35.5 37.3	17.7 12.6	14.5 11.0	1.9 1.8	-	-	内面：2.5YR 8/2 外面：2.5YR 6/2	前面：輪上鉢底→新日赤 背面：輪明き→ロクロナデ	F-009	10-5 102	
2	1号窯跡 排水溝(SD2)	3	丸底	35.0 37.3	19.0 14.6	15.0 13.9-3	2.0 2.2	-	-	内面：SYR 6/3 外面：SYR 7/4	前面：輪上鉢底→新日赤 背面：輪明き→ロクロナデ 周縁：ヘラケズリ	F-010	10-6 101	

第42図 1号窯跡出土遺物(20)・排水溝(SD2)出土遺物(1)

整地層 G：範囲は、長軸 5.2m、短軸 2.9m、厚さ 10 ~ 60cm の不整形である。下面には凹凸がみられる。淡赤橙色砂質シルトの單一層で、III層黒色化部分を覆う。

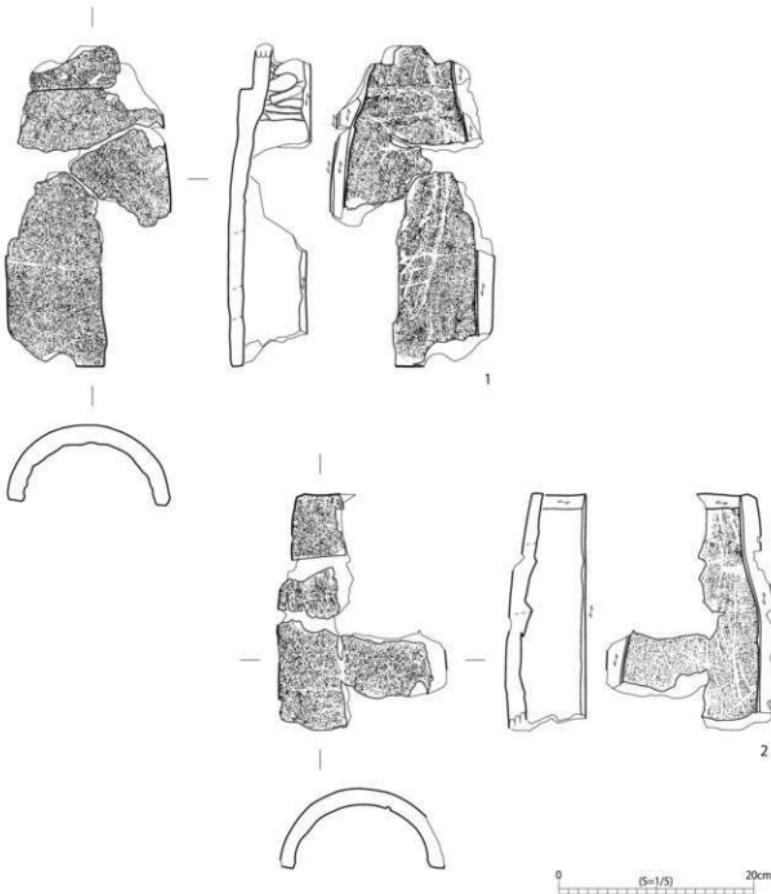
#### 【1号窯跡下面遺構】(第22図)

1号窯跡焼成部と重複する。11号土坑の調査時に、1号窯跡のIII層被熱範囲が想定される範囲をこえて東側に



第43図 1号窯跡出土遺物(21)・排水溝(2号溝)出土遺物(2)

延びていることを確認した。この被熱範囲を明らかにするために、前述した整地層・Ⅲ層黒色化部分の調査の③トレンチ、④東トレンチ、⑦南トレンチに区切られた範囲内で、整地層A・B・Fを掘り下げた。その結果、外側から褐色（第22図③）および黄褐色（第22図②）の2枚の整地層と、内側に明赤褐色の被熱範囲（第22図①b）、

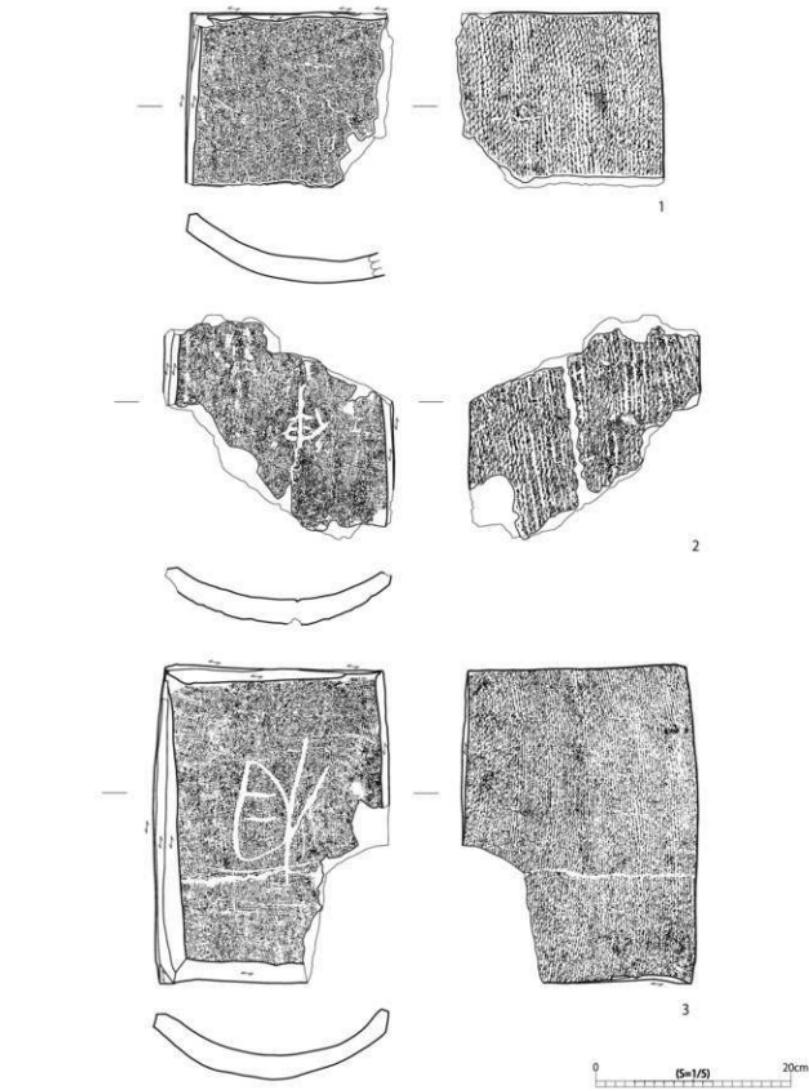


第44図 1号窯跡出土遺物(22)・排水溝(2号溝)出土遺物(3)

さらにその内側に焼土（第22図①a）を確認した。この被熱範囲は、被熱の度合いが強く、1号窯跡よりも古い窯跡である可能性がある。この部分は現状保存される範囲内にあることから、平面の確認にとどめた。

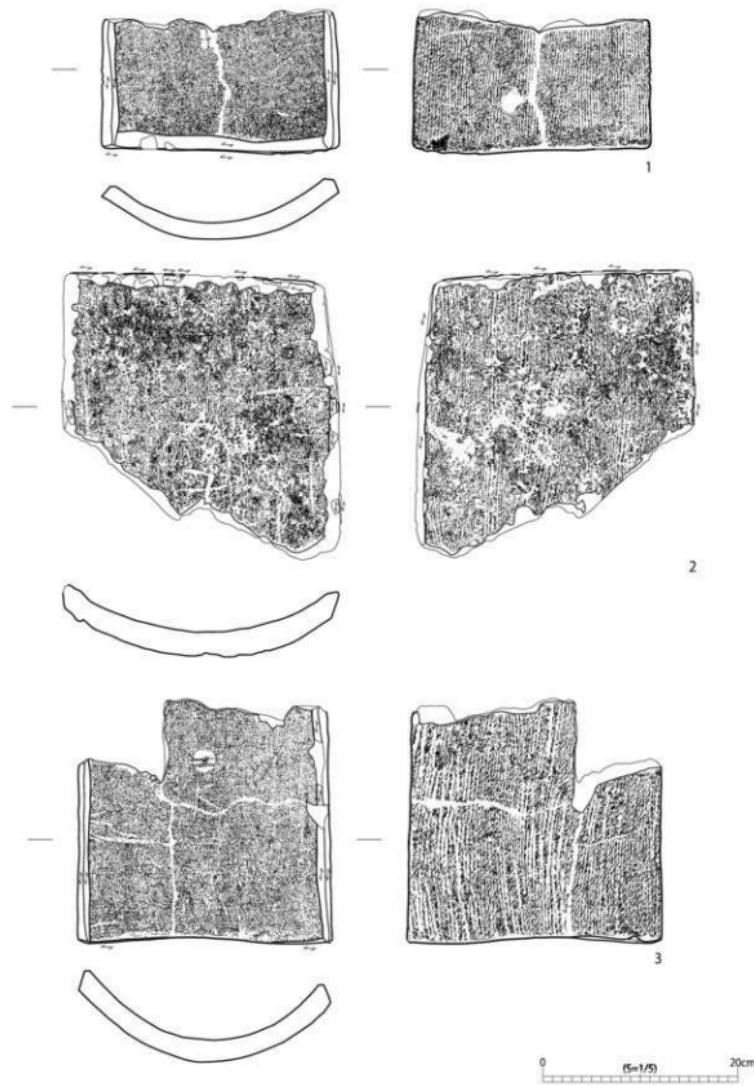
### 3号窯跡 (SO3) (第53～85図・第5表)

**【確認状況】** 調査区東側の斜面、E・F-5～8、G-5～7グリッドに位置し、丘陵から東側に樹枝状に延びる台地付根部の斜面に構築されている。擾乱により削平されているが、窯体の残存状態は良好である。他の遺構との重複関係は認められない。本窯跡と南側に隣接する1号窯跡の窯体との間隔は、19.65mである。本窯跡は岩盤ま



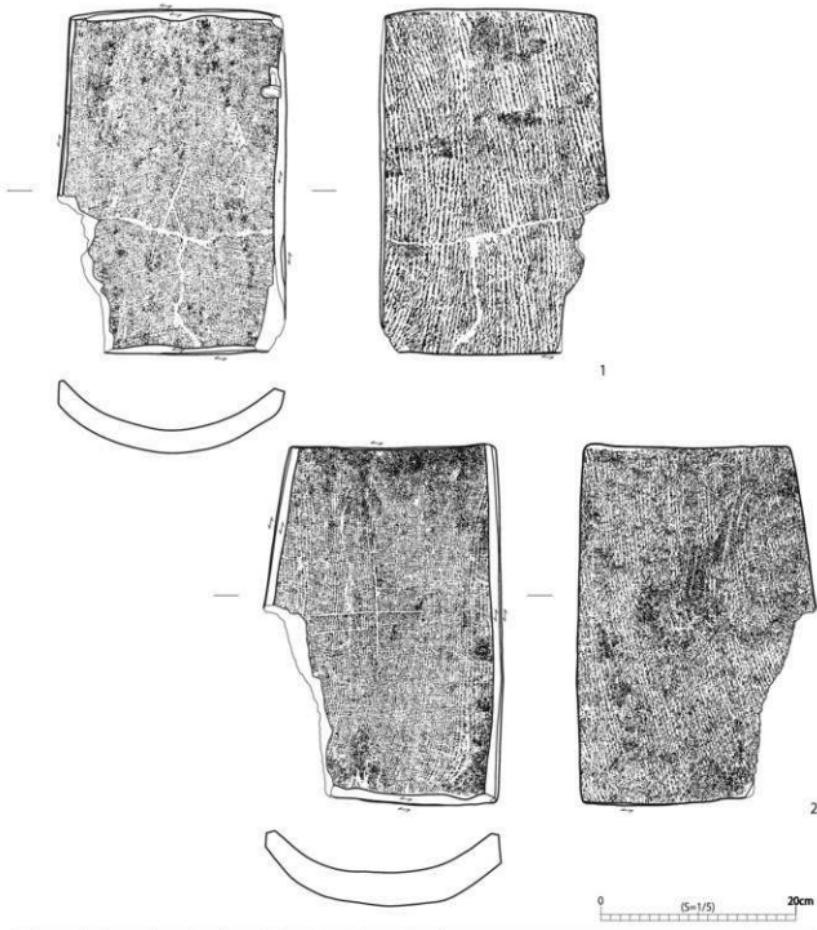
番号	遺構名 グリッド	部位	種別	前大長 (cm)	正面幅 (cm)	側面幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 剥離 (cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整・備考			登録 番号	写真 番号
											前面	背面	側面		
1	1号窯跡 漆木溝切面	底面 直上	平瓦	18.0+	-	20.1+	2.5	-	-	N 3/0	前面：布目模、凸面：輪印き 側面：側面・挑抜面へラケズリ	背面：ヘラ書き「瓦」	G-041	11-3	
2	1号窯跡 漆木溝切面	底面 直上	平瓦	23.1+	23.3+	-	2.6	-	-	SYR 7/4	前面：布目模→一部ナデ 凸面：輪印き 側面：ヘラ書き	背面：ヘラ書き「瓦」	G-042	11-4	
3	1号窯跡 漆木溝切面	6	平瓦	32.7	15.1 (23.4)	22.3	2.6	-	-	N 5/0	前面：布目模→一部ナデ 凸面：輪印き→一部ナデ 側面：ヘラ書き	背面：ヘラ書き「瓦」	G-043	11-5 102	

第45図 1号窯跡出土遺物(23)・排水溝(2号溝)出土遺物(4)



番号	遺構名 遺物名(写真)	部位	種別	最大長 [cm]	広幅 [cm]	狭幅 [cm]	厚さ [cm]	瓦当面 長[cm]	瓦当面 厚さ[cm]	色調	成形・調節・備考			写真 番号
											内面	外面	備考	
1 1号窓跡 窓枠(写真)	6	平瓦	14.7+	24.1	-	2.0	-	-	-	黒褐色	内面：斜切り窓・舟目窓　凸面：窓下押 縫隙：側面・広幅部へラケズリ	内面：斜切り窓・舟目窓　凸面：窓下押 縫隙：側面・SYR 7/4	四面：押田田	044 98
2 1号窓跡 窓枠(写真)	6	平瓦	29.4+	-	24.9 (26.5)	2.8	-	-	-	黒褐色	内面：斜切り窓・舟目窓+一部ナメ　凸面：窓下押+一部ナメ 縫隙：側面・狭幅部へラケズリ	内面：斜切り窓・舟目窓+一部ナメ　凸面：窓下押+一部ナメ 縫隙：側面・SYR 5/1	四面：押田田	045 104
3 1号窓跡 窓枠(写真)	6	平瓦	25.2+	26.0	-	2.3	-	-	-	黒褐色	内面：舟目窓　凸面：窓下押 縫隙：側面・広幅部へラケズリ	内面：舟目窓　凸面：窓下押 縫隙：側面・SYR 6/4	四面：押田田　内面：ヘラ書き「大」	046 100

第46図 1号窓跡出土遺物(24)・排水溝(2号溝)出土遺物(5)



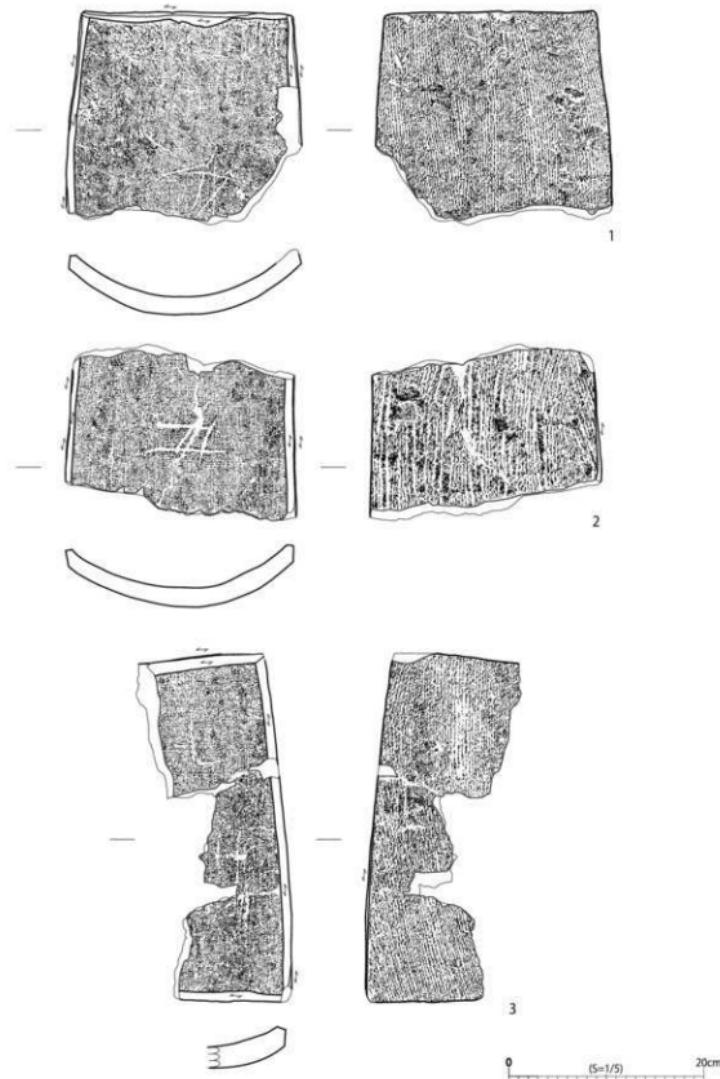
第47図 1号窯跡出土遺物(25)・排水溝(2号溝)出土遺物(6)

でⅢ層を掘り込み、床面・壁面を構築している。窯体内の堆積層の状況から、天井部はスサ入り粘土によって架構したと考えられる。Ⅲ層を主体とする明黄褐色・にぶい黄褐色・褐色を示す整地層(A～M)が認められる。整地層の周囲には、1号窯跡同様Ⅲ層が黒色(暗色)化した部分が認められる。

【窯体構造】半地下式有牀(ロストル)式の平窯である。

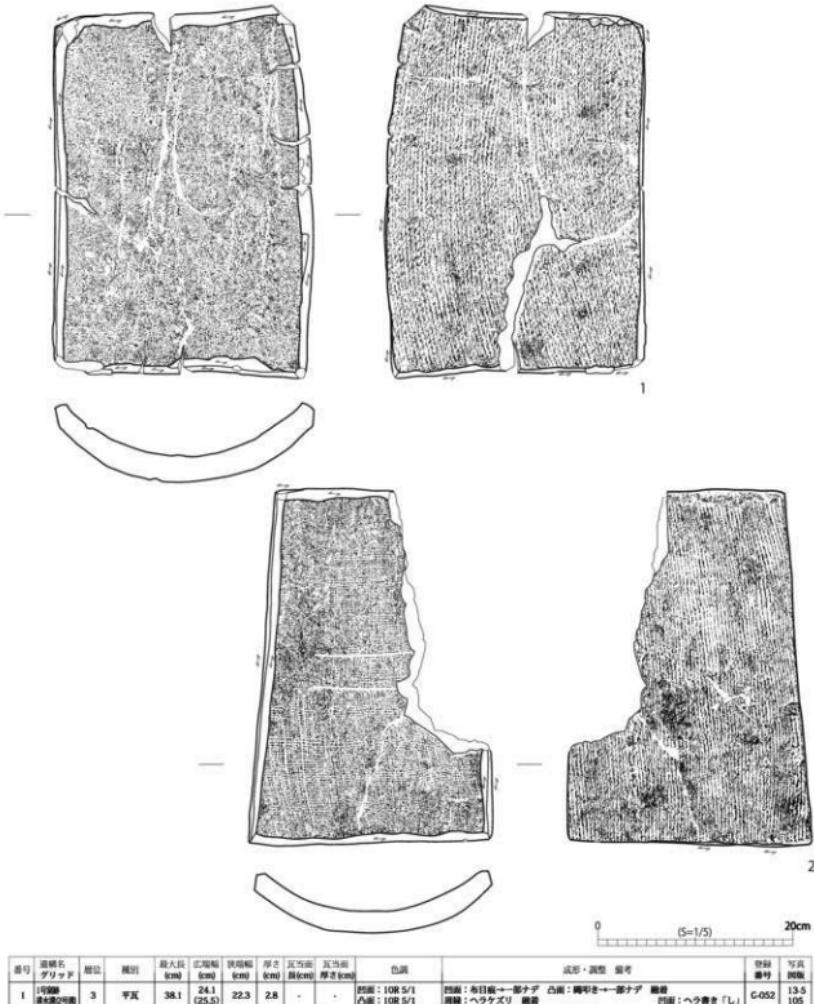
【規模】燃焼部～前庭部までの窯体の全長は13.0mである。

【中軸線の方向】燃焼部～前庭部を通す中軸線の方位はN-73°-Wである。



番号	遺構名 グリッド	部位	種別	最大長 (cm)	広幅幅 (cm)	厚端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整・模様			標本 番号	写真 番号
											凹面	凸面	縫合部		
1 [可変] 漆木塗(2号溝)	4	平瓦	22.0+	-	21.5	1.9	-	-	-	黒褐色	凹面: 7.5YR 6/4 凸面: SYR 6/4 縫合: 剥離・脱脂面ハラズリ	縫合: 織印き——面ナデ 凹面: ヘラ書き解説干明	凹面: ヘラ書き解説干明	G-049	13-2 105
2 [可変] 漆木塗(2号溝)	4	平瓦	18.1+	23.7+	-	2.1	-	-	-	黒褐色	凹面: 2.5Y 5/2 凸面: SYR 6/4 縫合: 剥離・脱脂面ハラズリ	縫合: 織印き——面ナデ 凹面: ヘラ書き解説干明	凹面: ヘラ書き解説干明	G-050	13-3 101
3 [可変] 漆木塗(2号溝)	3	平瓦	35.8	10.3+	12.7+	2.4	-	-	-	黒褐色	凹面: 7.5YR 5/2 凸面: 2.5Y 5/3 縫合: ハラズリ	縫合: 織印き——面ナデ 凹面: ヘラ書き「井」	凹面: ヘラ書き「井」	G-051	13-4 103

第48図 1号窯跡出土遺物(26)・排水溝(2号溝)出土遺物(7)



第49図 1号窓跡出土遺物(27)・排水溝(2号溝)出土遺物(8)

【操業面数】 5面 (A期: 構築時床面、B期: 細別36層上面、C期: 細別34層上面、D期: 細別31層上面、E期: 細別29層上面)

【煙出部】 残存しない。

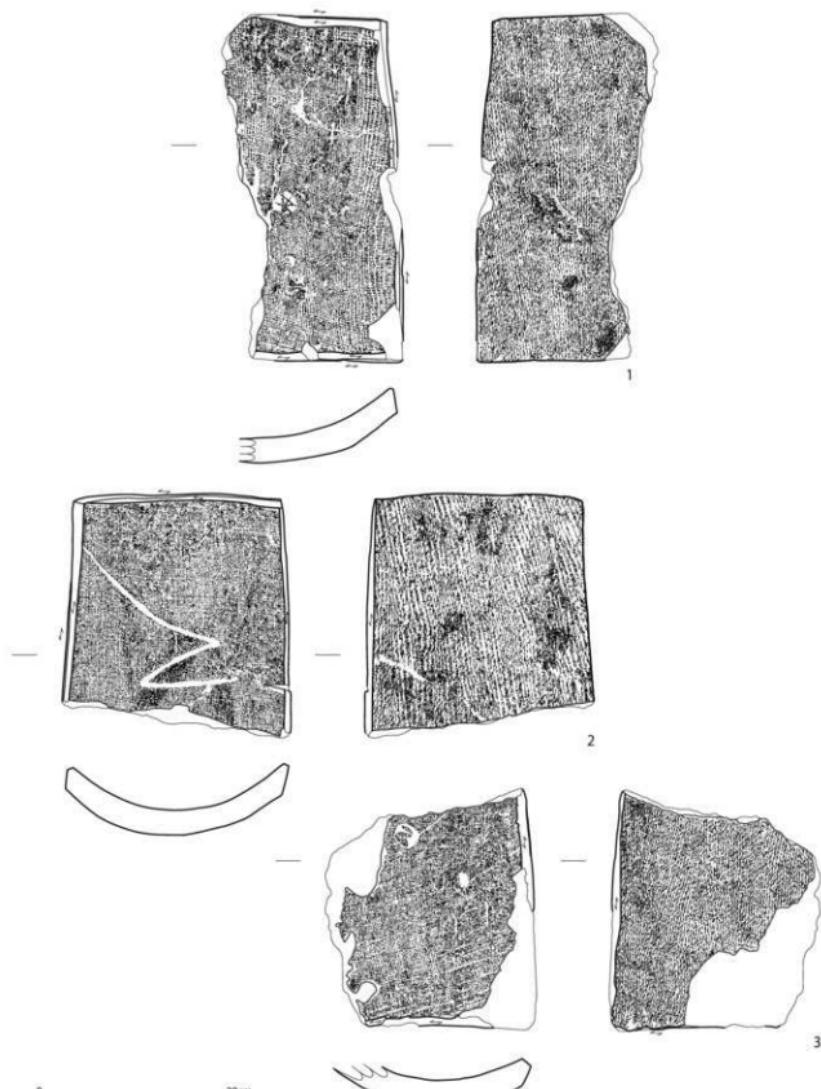
【焼成部】 規模は下端で計測して、奥行き1.0~1.2m、幅2.0~2.1m、残存する焼出面から床面までの壁高1.3mである。平面形は、上端では不整形で、下端は奥壁部が斜辺となる台形である。分焰牀(ロストル)を



第50図 1号窯跡出土遺物(28)・排水溝(2号溝)出土遺物(9)

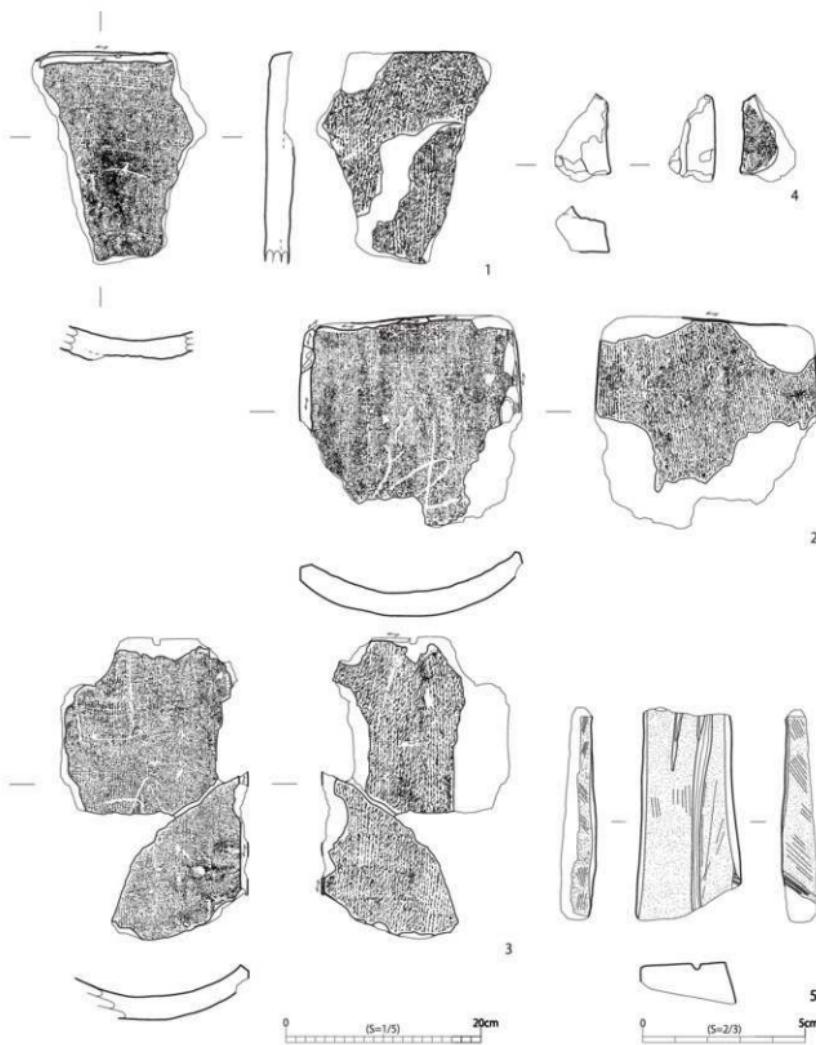
取り外していないため明確ではないが、床面に凹凸は認められず、奥壁から隔壁に向かって $12^{\circ}$ の角度で傾斜する。四方の壁は、縦長に半截した平瓦の凸面を上部に置き、長辺を壁面と合わせスサ入り粘土と交互に積み重ねている。隔壁・北側壁・南側壁には、スサを入れていない粘土を貼っていた痕跡が認められるが、隔壁を除き、四壁のほとんどの部分で剥落し、壁を構築した瓦積みが露出している。四壁の瓦積みは、北側壁・南側壁・奥壁で20段以上、隔壁で10段以上を確認している。南北側壁は、床面からほぼ垂直に立ち上がっている。瓦積みは奥壁が積み上げられた後に、南北側壁が積まれていた。南側壁下部には、完形の平瓦3枚を垂直に立て、壁をしている部分がある。

番号	遺物名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広場幅 (cm)	狭場幅 (cm)	厚さ 床面 (cm)	瓦当面 (cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 回数
1	1号窯跡 排水溝	3	平瓦	34.2-	-	18.4 (22.0)	2.3	-	-	四面：糸切り面→帯目盛→一部ナメ 凸面：側面・狭場面(ラケツ) 凹面：7SYR 7/4	四面：側面・狭場面(ラケツ) 凹面：7SYR 7/4	G-054 14-2 104	
2	1号窯跡 排水溝	3	平瓦	37.1	1.7 (28.5)	24.7	2.7	-	-	四面：糸切り面→帯目盛 凸面：側面・狭場面(ラケツ) 凹面：7SYR 7/4	四面：側面・狭場面(ラケツ) 凸面：7SYR 7/4 凹面：7SYR 7/4 ナメ→庄屋 凹面：たたら乾土貼り合せ面 凹面：ヘラ書き「1」	G-055 14-3 104	



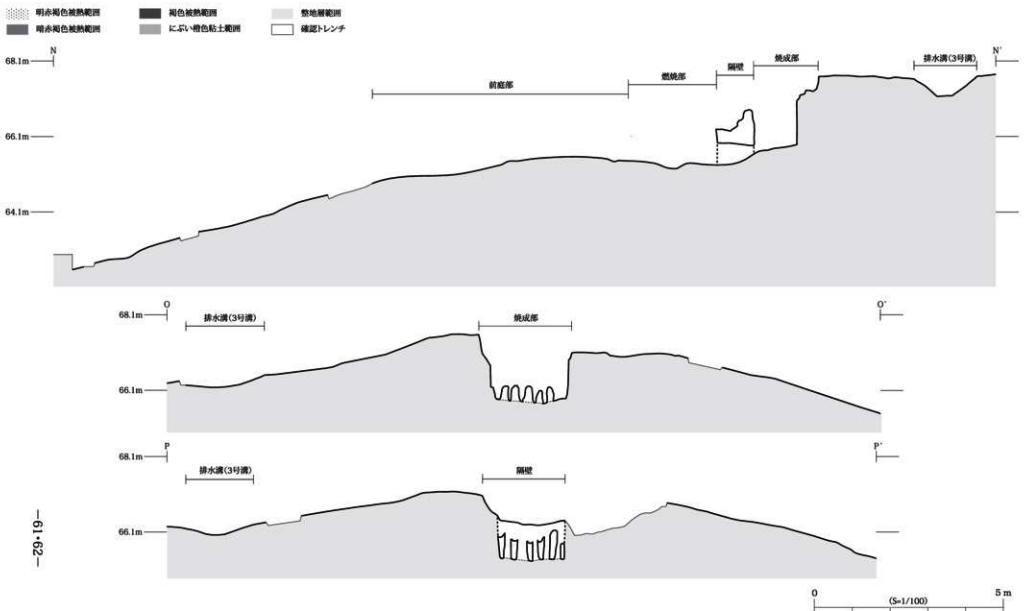
番号	遺物名 グリッド	部位	縦幅 (cm)	横幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 底面 厚さ(cm)	色調	成形・調整・備考			登録 番号	写真 番号
								凹面	凸面	備考		
1 (引抜 模本複数用)	1	平瓦	35.6	15.1+ 25.0	12.9+	2.7	-	-	-	凹面：布目面+一部ナデ 凸面：脚印き+一部ナデ 凸面：10YR 5/1 凹面：10YR 5/1	15-1 99	G-056
2 (引抜 模本複数用)	1	平瓦	25.0-	-	21.3	2.7	-	-	-	凹面：布目面+一部ナデ 凸面：脚印き+一部ナデ 凸面：2.5YR 6/1 凹面：脚印+一部 扱い面ハラケズリ	15-6 102	G-057
3 (引抜 模本複数用)	1	平瓦	24.8+	11.3+	-	2.8	-	-	-	凹面：糸切り面+一部ナデ+一部ナデ 凸面：脚印き 凹面：7.5YR 6/3 凸面：7.5YR 7/3	15-4 100	G-058

第51図 1号窯跡出土遺物(29)・排水溝(2号溝)出土遺物(10)

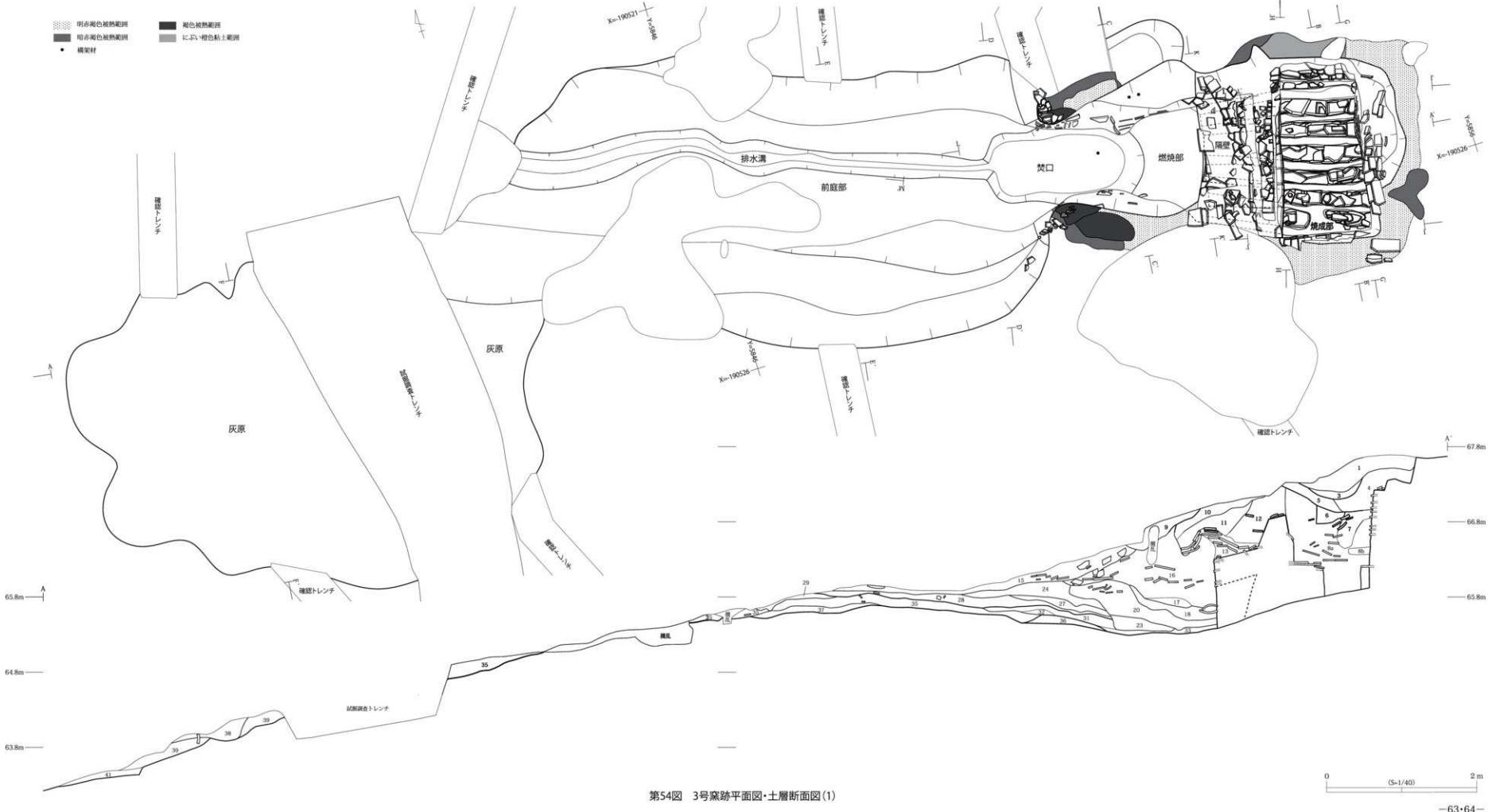


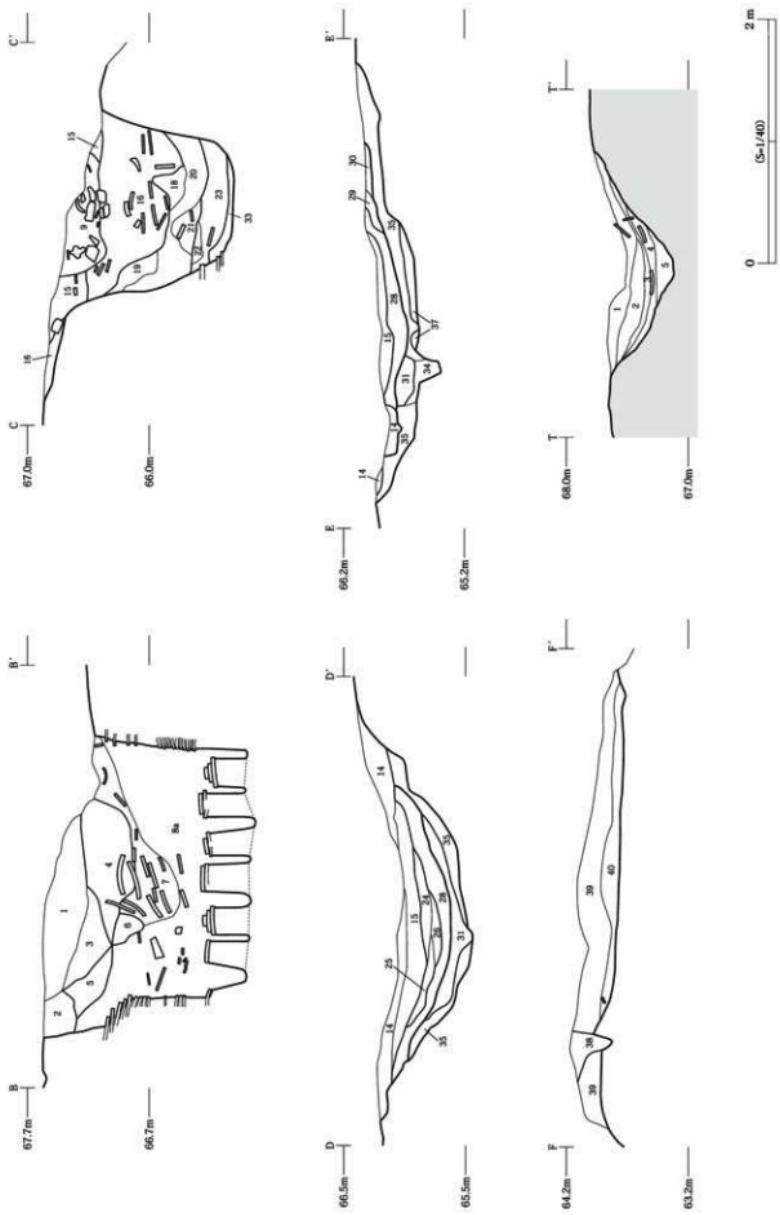
番号	遺物名 グリット	部位	種別	最大長 (cm)	広場幅 (cm)	斜面幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm) 厚さ(cm)	瓦当面 長(cm) 厚さ(cm)	色調	成形・調整 参考	登録 番号	写真 箇所
1 (1号跡 瓦当面) (2)	1	平瓦	21.9+	-	13.6+	3.1	-	-	-	内面：布目模→一部ナデ 背面：粘土重ね→脚印有	内面：ヘラ書き「上工」	G-059	15-5 105
2 (1号跡 瓦当面) (2)	1	平瓦	21.8+	-	18.6 (25.3)	1.6	-	-	-	内面：布目模→一部ナデ 背面：粘土重ね→脚印有	内面：ヘラ書き「上工」	G-059	15-5 105
3 (1号跡 瓦当面) (2)	1	平瓦	31.0+	-	7.3-	2.4	-	-	-	内面：布目模→一部ナデ 背面：粘土重ね→脚印有	内面：ヘラ書き「上工」	G-060	15-7 101
4 (1号跡 瓦当面) (2)	4	瓦瓦	8.9+	5.5+	-	4.6	-	-	-	内面：布目模→一部ナデ 背面：粘土重ね→脚印有	内面：ヘラ書き「丸丸」	G-061	15-8 103
番号	遺物名 グリット	部位	種別	最大長 (cm)	広場 幅(cm)	斜面 幅(cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm) 厚さ(cm)	瓦当面 長(cm) 厚さ(cm)	色調	成形・調整 参考	登録 番号	写真 箇所
5 (1号跡 瓦当面) (2)	3	瓦石	95.5	(3.3)	(1.1)	30.3	-	-	-	内面：布目模→一部ナデ 背面：粘土重ね→脚印有	内面：ヘラ書き「丸丸」	X-001	15-3

第52図 1号窯跡出土遺物(30)・排水溝(2号溝)出土遺物(11)

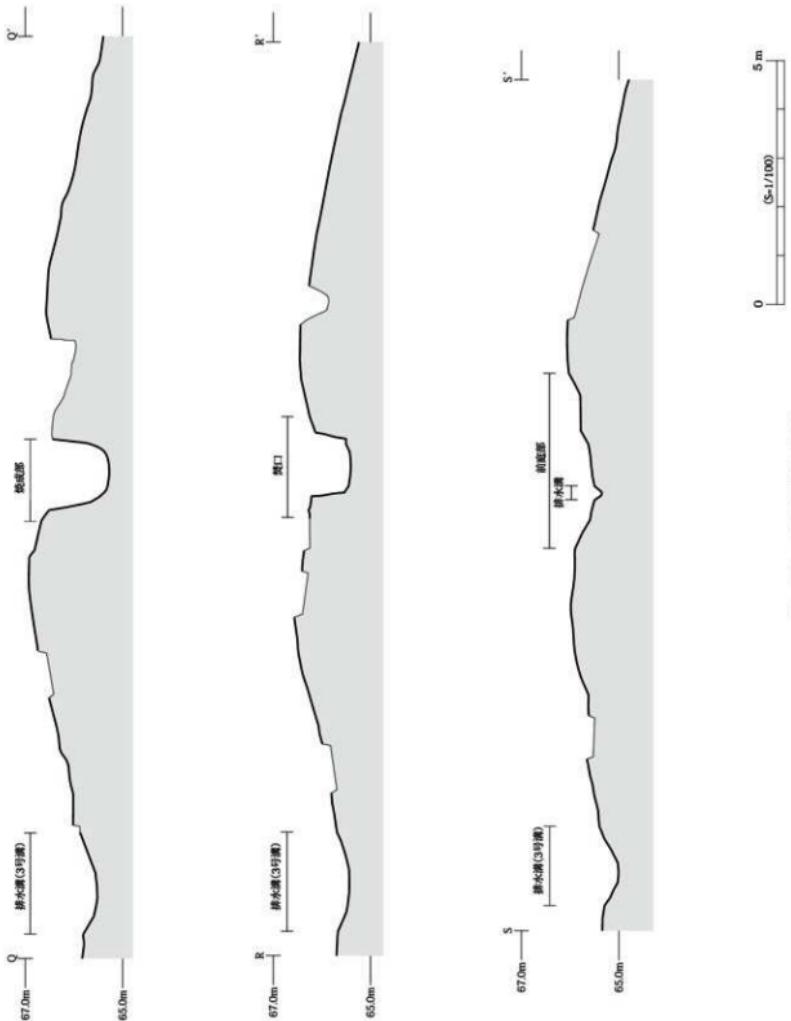


第53図 3号窯跡平面図・断面図(1)





第55図 3号堤跡土層断面図(2)・排水溝(3号溝)土層断面図



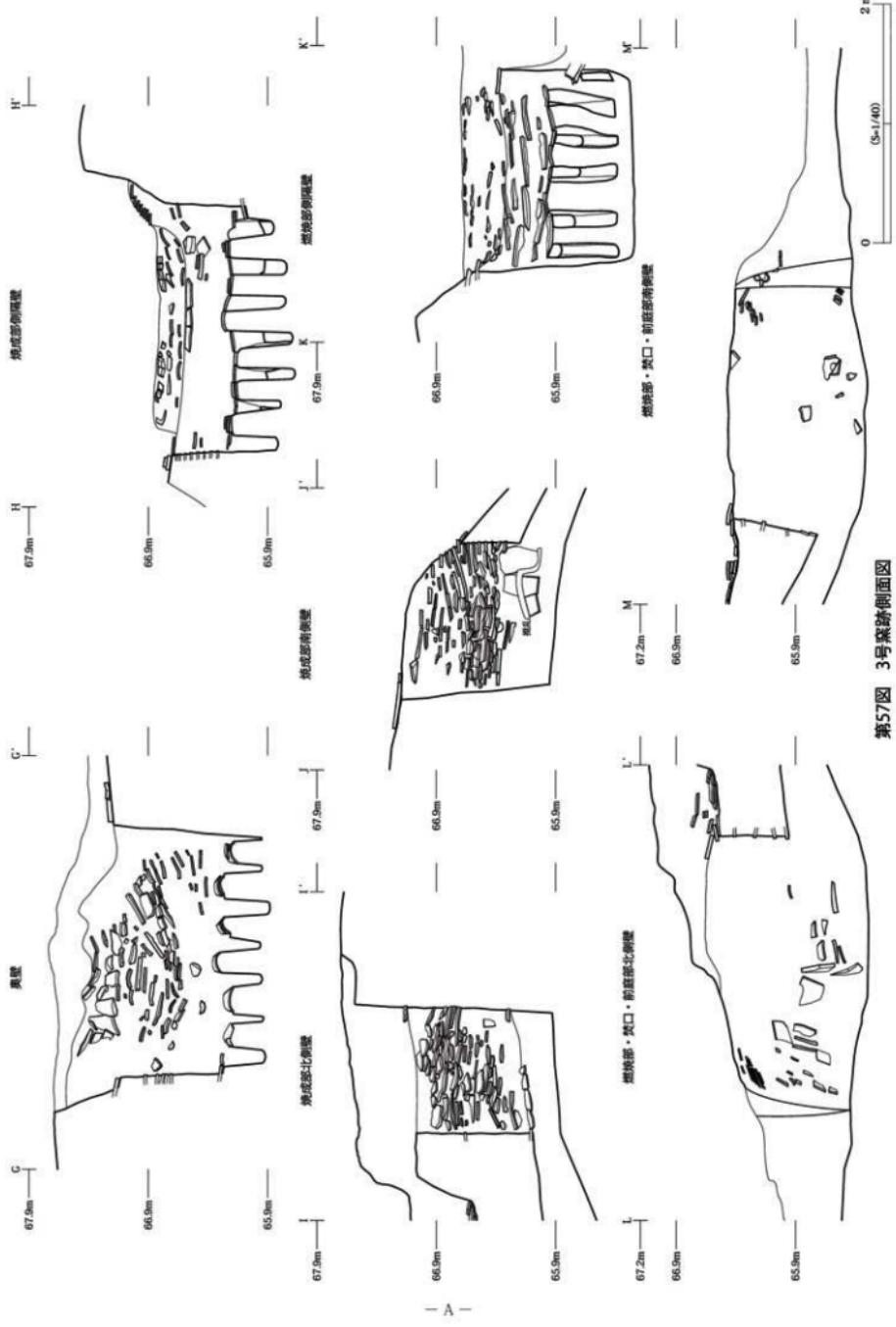
第56図 3号窯跡断面図(2)

分焰牀と奥壁の関係は、分焰牀が奥壁構築後に構築されている。奥壁と分焰牀は隔壁西側端部から奥壁方向に向かって、縦長に半截した平瓦の凸面を上部に置き、スサ入り粘土と交互に積み重ねて構築している。分焰牀は幅20～25cm、高さ35～45cm（瓦10段以上）、隔壁西側の下部を含めた長さは2.1～2.2mである。側壁と各分焰牀の間には、幅10～15cmの焰道7本があり、隔壁下部の通焰孔へつながっている。

床面・壁面は、被熱により極めて強く赤色化し、硬化している。窯体周囲の被熱状況は、窯体に近い部分では明赤褐色で、離れた部分では暗赤褐色である。

構架材は確認されなかった。

第57圖 3號探跡側面圖



**【隔壁部】** 隔壁は厚さ1.0m、燃焼部の床面から残存する高さ1.55mである。焼成部から6本の分焰牀(ロストル)が隔壁部に向かっている。隔壁下部の両側壁と各分焰牀の間には、幅10~20cmの7本の焰道がある。通焰孔は、焰道の上部を完形の平瓦で覆い、立面形が長方形もしくは下部が窄まる台形で、幅10~20cm、高さ30~45cmである(写真9-7~13)。焼成部に構築されている分焰牀は隔壁下部の分焰牀と連続しており、焼成部の焰道は隔壁下部の通焰孔にそのまま繋がっている。隔壁下部で北から2本目と3本目の通焰孔が合流し、北側壁から2本目の分焰牀が、隔壁下部で消滅し、通焰孔は6本に減少している。隔壁下の通焰孔の床面は、燃焼部に向かって22°の角度で傾斜する。焼成部隔壁端部の床面と燃焼部の床面は、比高差45cmの段差が認められる。隔壁は、分焰牀が構築された上に、平瓦を積み上げて構築されている。焰道の上部を覆う完形の平瓦は、2~3段にわたっており、平瓦とスサ入り粘土を交互に積み上げている。また、この時に積み上げる平瓦の表裏面の使用に、規則性は認められない。その上部では、スサ入り粘土を厚く積み、その後に再び完形の平瓦とスサ入り粘土を交互に2~3段積み上げ、その後にスサ入り粘土を厚く重ねている。完形の瓦の積み上げは、通焰孔を構成する上部に積まれた瓦を含めて10段以上である。1号窯跡で確認したような隔壁面に見られる縦位の板状の痕跡は認められないが、積み上げた完形の平瓦の先端部分の面が一致していることから、同様に型枠状のものが使用され、隔壁が構築されたと考えられる。

床面・壁面は、被熱により極めて強く赤色硬化している。窯体周囲の被熱状況は、窯体に近い部分では明赤褐色で、離れた部分では暗赤褐色である。

構架材は確認されなかった。

**【燃焼部】** 規模は下端で計測して、奥行き2.1m、幅1.5m、焚口幅1.1m、検出面から床面までの壁高1.4mである。平面形は、焚口から隔壁に向かって広くなる逆台形である。床面は隔壁から焚口に向かって2°の角度で傾斜する。南北両側壁は焼成部・隔壁の側壁から連続しており、縱長に半截した平瓦の凸面を上に置き、長辺を側壁の面に合わせ、スサ入り粘土と交互に積み重ねている。表面には、スサを入れていない粘土を貼っている。隔壁付近の両側壁は、北側壁では床面から1.1mまで直立気味に立ち上がり、その後屈曲して外傾している。南北両側壁の中央部から隔壁寄りに、床面から30~50cmの位置で向かい合うように、棟平瓦が確認されている(写真9-2・4)。南側壁は床面から1.1mまで直立気味に立ち上がり、その先は撓乱によって消滅している。両側壁上部では、完形の平瓦の凹面を上にして、燃焼部の中央に向かって迫り出すように積んでいる部分が認められ、天井部の形状と構架方法を示している可能性がある。燃焼部中央の北側壁では、平瓦が凸面を外面に向け、立てられた状態で出土している。平瓦と北側壁の隙間に、スサ入り粘土が詰められている。南側壁で、同様に平瓦が出土しており、当該部分は内側に括れています。燃焼部床面には、括れ部分から焚口を経て前庭部までいたる長軸2.2m、短軸1.0m、深さ10cmの楕円形の土坑状の掘り込みが認められる。床面に凹凸は見られず、焚口から隔壁方向へ極めて緩やかに傾斜している。この掘り込み西側から、前庭部中央に排水溝と考えられる施設がある。

燃焼部両側壁が南北に開く屈曲面が焚口と考えられ、平瓦が立位で出土している。平瓦の凹面には、スサ入り粘土が認められ、壁面に貼付けられていたものが剥落したものと考えられる。

床面・壁面は、被熱により極めて強く赤色化し、硬化している部分が認められる。窯体周囲の被熱状況は、窯体に近い部分では褐色で、離れた部分では明赤褐色と暗赤褐色である。

燃焼部に伴う構架材は、5ヶ所で検出した(写真10-2)。北側壁外で1ヶ所、北側側壁内で2ヶ所、南側側壁外で2ヶ所である。構架材は炭化し、直径1cm前後で、横断面は円形である。燃焼部の中央で、直径8cmで円形の炭化材を確認した。

**【前庭部】** 燃焼部側壁から焚口に続く壁は南北に屈曲して開き、前庭部へ続いている。前庭部は、南北3.9m・東西8.4m、深さは0.4~0.85mの、東西に長い不整楕円形である。床面は凹凸が少なく、東半部は平坦で、



65.9m U 肥地場B U'

64.9m

64.2m W 肥地場E W'

63.2m

65.2m V 肥地場D V'

64.2m

67.7m X 肥地場C X'

66.7m

67.3m ①

66.3m

65.3m J

66.2m ②

65.2m

64.2m

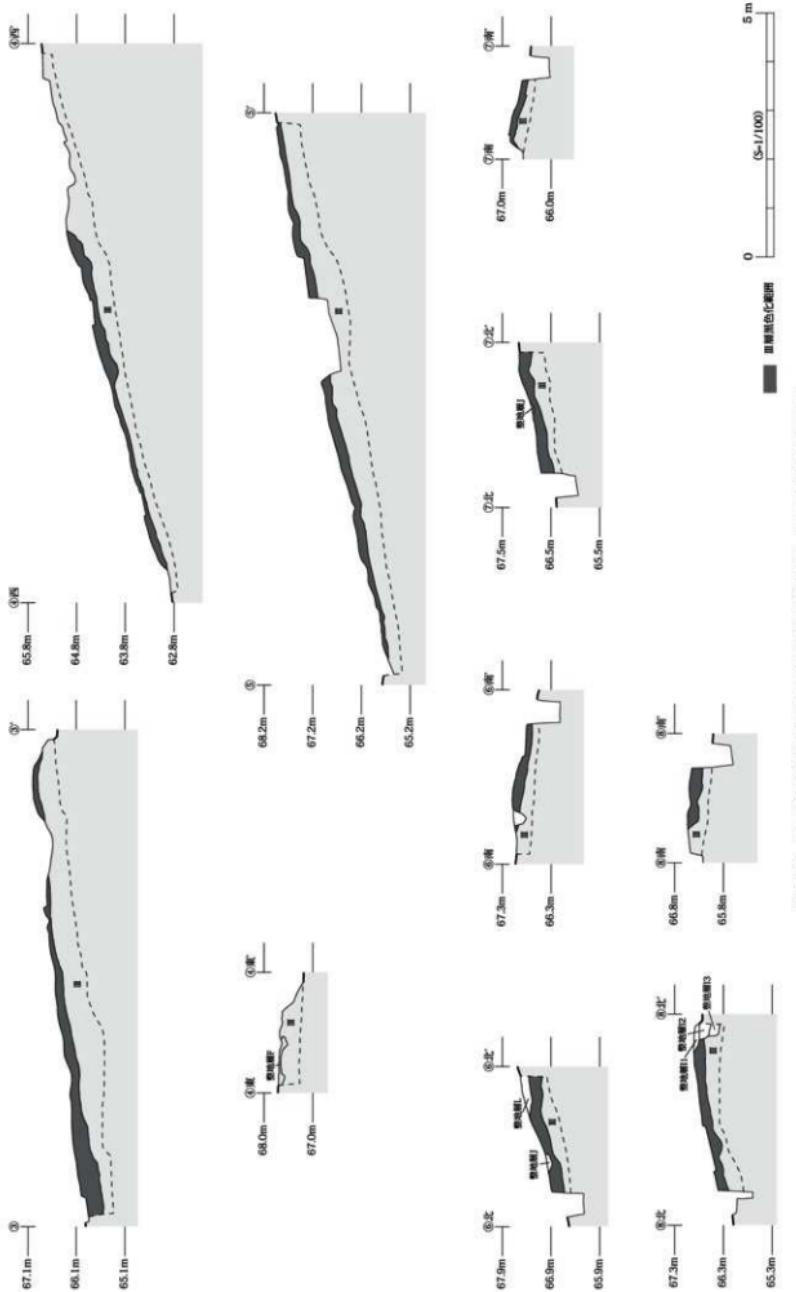
63.2m

62.2m

Ⅲ層黒色化部分

0 (S-1/100) 5m

第58図 3号窯跡整地層・Ⅲ層黒色化部分確認トレンチ平面図・土層断面図(1)



第59図 3号竪防整地層・Ⅲ層黒色化部分解説トレンチ土層断面図(2)

## 3号窓跡・3号窓跡排水溝(SD3)、3号窓跡整地層・Ⅲ層黒色化部分土層観察表

## 3号窓跡

層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1 にぶい黄褐色10YR6/3	粘土質シルト	流入堆積層(大別1層) 売上粒(鉄鉱)を少量含む。鐵+銅+鉛		21 明黄色10YR6/6	粘土質シルト	常供給風成層(大別10層) 黒土(灰-黑-褐)大ブロックを多量含む。鐵+銅+鉛+鉄	
2 にぶい黄褐色10YR6/4	砂質シルト	流入堆積層(大別1層) 鐵を少含む。		22 黄褐色10YR3/3	粘土質シルト	流入堆積層(大別1層) 黑土(灰-黑-褐)を帶状に含む。北東に粘土(灰)小ブロックを少含む。	
3 にぶい黄褐色10YR6/3	粘土質シルト	流入堆積層(大別1層) 売上粒を複数含む。		23 黄褐色10YR3/3	粘土質シルト	流入堆積層(大別1層) 黑土(灰-黑-褐)中一塊大ブロックを含む。	
4 明黄色7SYR5/6	粘土質シルト	常供給風成層(大別1層) 鐵土粒+鐵を少量含む。		24 黄7SYR4/4	粘土質シルト	流入堆積層(大別1層) 黑土大ブロックを多量含む。炭化物+鉄+銅+鉛含む。	
5 明黄色7SYR5/6	砂質シルト	常供給風成層(大別1層) 鐵土粒+鐵を少量含む。		25 黄褐色10YR2/2	シルト	流入堆積層(大別1層) 黑土粒を多量含む。炭化物を少量含む。鐵を微量含む。	
6 にぶい黄褐色10YR6/4	砂質シルト	流入堆積層(大別1層) 白灰色火山灰		26 黄7SYR4/4	粘土質シルト	流入堆積層(大別1層) 灰化物を含む。鐵を少量含む。	
7 明黄色7SYR5/6	粘土質シルト	常供給風成層(大別1層) 鐵土粒+鐵を少量含む。炭化物を少量含む。		27 黄7SYR4/4	砂質シルト	肥料堆積層(大別12層) 鐵土粒を多量含む。鐵+銅+鉛+鉄を少量含む。	
8a 明黄色7SYR5/6	粘土質シルト	常供給風成層(大別1層) 砂質+アルカリ粘土(鉄鉱)大ブロックを複数含む。鐵+銅+鉛+鉄を少量含む。		28 黄10YR2/1	粘土質シルト	肥料堆積層(大別12層) 北東にシルト(灰)を帶状に含む。炭化物を少量含む。鐵を微量含む。	
8b 線7SYR5/6	粘土質シルト	常供給風成層(大別1層) シラスを多量含む。鐵を含む。		29 黄7SYR4/4	砂質シルト	流入堆積層(大別13層) 北東にシルト(灰)を帶状含む。炭化物を少量含む。	
9 黄10YR4/6	シルト	流入堆積層(大別1層) 鐵を含む。鐵土粒を少量含む。炭化物を微量含む。		30 にぶい黄褐色10YR6/3	シルト	流入堆積層(大別13層) 鐵土粒を多量含む。炭化物を微量含む。	
10 にぶい黄褐色10YR6/3	粘土	常供給風成層(大別1層) 売上粒大ブロックを複数含む。		31 黄7SYR4/4	シルト	肥料堆積層(大別14層) 下部に砂質シルトにぶい黄褐色大ブロックを多量含む。炭化物+鐵を少量含む。鐵+銅+鉛を微量含む。	
11 明黄色10YR7/6	粘土	常供給風成層(大別1層) 鐵土粒+鐵を複数含む。鐵を微量含む。		32 黄10YR2/1	粘土質シルト	肥料堆積層(大別14層) 上部にシルト(灰)-黄褐色にむしろ鐵土粒を帶状に含む。鐵を含む。	
12 明黄色10YR6/6	砂質シルト	常供給風成層(大別1層) 鐵土粒+鐵を複数含む。鐵を微量含む。		33 黄10YR2/1	粘土質シルト	肥料堆積層(大別14層) 鐵土粒+シルト(灰)小ブロックを含む。	
13 明黄色7SYR5/6	砂質シルト	常供給風成層(大別1層) 鐵を複数含む。		34 黄褐色10YR3/2	シルト	肥料堆積層(大別15層) 鐵土粒+鐵+炭化物を複数含む。	
14 にぶい黄褐色10YR6/3	粘土質シルト	流入堆積層(大別1層) 白灰色火山灰大ブロックを多量含む。炭化物+鐵(土粒)を少量含む。鐵を微量含む。		35 黄褐色10YR3/1	砂質シルト	肥料堆積層(大別15層) 鐵土粒を多量含む。炭化物+鐵(土粒)を少量含む。炭化物を微量含む。鐵+銅+鉛を微量含む。	
15 明黄色10YR3/2	粘土質シルト	流入堆積層(大別1層) 売上粒+鉄+銅+鉛+鉄を少量含む。		36 にぶい黄褐色10YR6/3	シルト	肥料堆積層(大別16層) 鐵土粒を含む。炭化物を微量含む。	
16 明黄色10YR6/6	粘土質シルト	流入堆積層(大別1層) 鐵土粒+鉄を多量含む。鐵+銅+鉛+鉄を少量含む。鐵+銅+鉛+鉄を少量含む。		37 黄7SYR4/4	シルト	肥料堆積層(大別16層) 鐵+大ブロックを多量含む。鐵+銅+鉛+鉄を少量含む。炭化物を微量含む。	
17 黄10YR4/6	粘土質シルト	常供給風成層(大別1層) 鐵土粒+鐵を少量含む。粘土にぶい黄褐色+鉄+銅+鉛+鉄を微量含む。		38 にぶい黄褐色10YR6/3	砂質シルト	流入堆積層(大別17層) 下部に粘土質シルトにぶい黄褐色10YR5/6(鉄)大ブロックを微量含む。鐵土粒を少量含む。	
18 黄褐色10YR3/1	シルト	流入堆積層(大別1層) 鐵土粒+鐵を複数含む。		39 黄7SYR4/6	砂質シルト	肥料堆積層(大別18層) 鐵土粒+鐵を含む。	
19 明黄色7SYR5/6	粘土質シルト	常供給風成層(大別1層) 下部に粘土質シルト(鉄)大ブロック+鉄を多量含む。鐵土粒+鐵を微量含む。		40 黄7SYR4/4	砂質シルト	肥料堆積層(大別18層) 鐵土粒+鐵を少量含む。鐵土粒を多量含む。鐵を含む。	
20 明黄色7SYR5/6	砂質シルト	常供給風成層(大別1層) 上部~中部に粘土質シルト(鉄)大ブロックを帯状に含む。下部に炭化物を微量含む。		41 黄10YR4/4	粘土質シルト	肥料堆積層(大別18層) 鐵土粒を微量含む。	

## 3号窓跡排水溝(SD3)

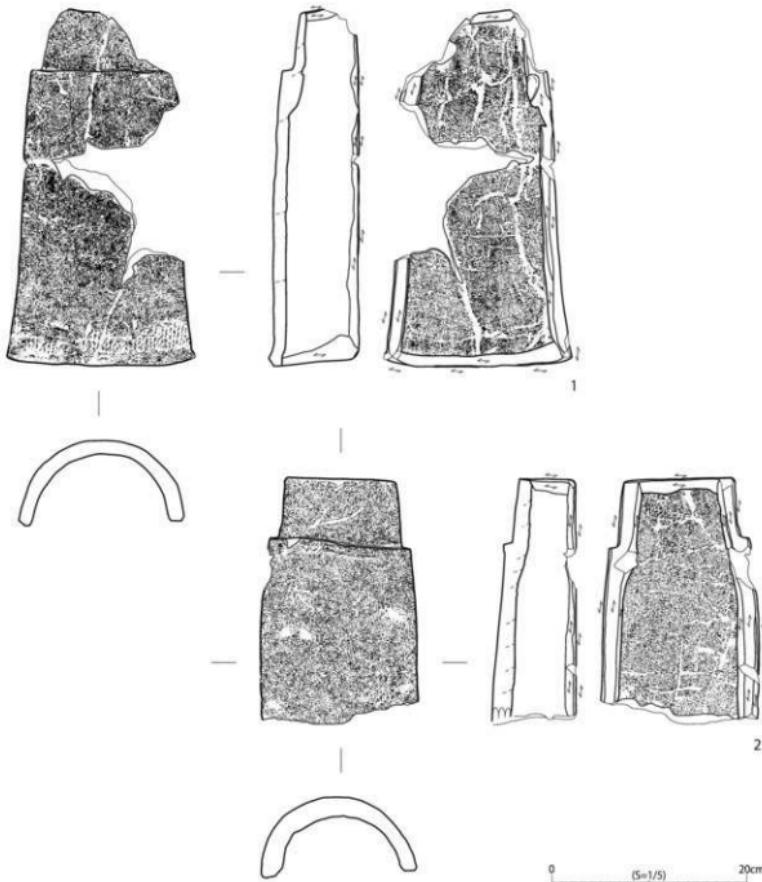
層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1 黑褐色10YR3/2	シルト	流入堆積層 鐵を含む。		4 明黄色10YR6/6	粘土質シルト	流入堆積層 鐵を含む。シルト質砂質(鉄)中大ブロックを複数含む。	
2 黑褐色10YR3/1	シルト	流入堆積層 鐵を含む。炭化物を微量含む。下部に粘土質シルト(鉄)を帶状に含む。		5 黄褐色10YR5/6	砂質粘土	流入堆積層 粘土質シルトにぶい黄褐色を少量含む。粘土にぶい黄褐色中大ブロックを微量含む。下部に粘土質物を微量含む。	
3 にぶい黄褐色10YR5/4	粘土質シルト	流入堆積層 純度の粘土・粗粒物なし。					

## 3号窓跡整地層・Ⅲ層黒色化部分

層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
整地 層A	にぶい黄褐色10YR6/3	砂質シルト	鐵を多量含む。炭化物粒を少量含む。鐵土粒を複数含む。	整地 層B	明黄色10YR6/6	砂質シルト	空供給層に砂質シルト-明黄色10YR6/6中・大・極大ブロックを少含む。粘土・中・小・大ブロックを少含む。炭化物粒を微量含む。
整地 層B	にぶい黄褐色10YR6/3	砂質シルト	鐵を多量含む。炭化物粒を微量含む。鐵土粒を複数含む。	整地 層C	にぶい黄褐色10YR5/4	砂質シルト	鐵を多量含む。鐵土粒・炭化物粒を微量含む。
整地 層C	にぶい黄褐色10YR6/3	砂質シルト	鐵を多量含む。炭化物粒を微量含む。鐵土粒を複数含む。	整地 層D	にぶい黄褐色10YR6/6	砂質シルト	鐵を多量含む。上・中部に炭化物粒を微量含む。上部に鐵土粒を複数含む。下部に砂質シルトにぶい黄褐色を帶状に含む。炭化物粒を微量含む。
整地 層E	明黄色10YR6/6	砂質シルト	鐵を多量含む。上・中部に炭化物粒を微量含む。上部に鐵土粒を複数含む。下部に砂質シルトにぶい黄褐色を帶状に含む。	整地 層E	にぶい黄褐色10YR5/6	砂質シルト	鐵を多量含む。炭化物粒を含む。鐵土粒にぶい黄褐色・中・大ブロックを少含む。炭化物粒を微量含む。
整地 層F	にぶい黄褐色10YR5/4	砂質シルト	砂にぶい黄褐色と互換性をなす。鐵を少量含む。	整地 層F	にぶい黄褐色10YR5/4	砂質シルト	鐵を多量含む。炭化物粒を微量含む。
整地 層G	にぶい黄褐色10YR5/4	砂質シルト	鐵土粒・鐵を多量含む。炭化物粒を微量含む。	整地 層H	にぶい黄褐色10YR5/4	砂質シルト	鐵を多量含む。炭化物粒を微量含む。鐵土粒を複数含む。中空部に砂質シルト(鉄)を帶状に多量含む。
整地 層H	にぶい黄褐色10YR5/4	砂質シルト	鐵を含む。				

西側に緩やかに傾斜している。壁は、床面から緩やかに立ち上がり、南側にテラス状の広がりがみられる。燃焼部中央から、前底部にいたる土坑状の落ち込みの西側端部から始まる排水溝は、長さ 6.3m、幅 0.25 ~ 0.5m、深さ 0.2m で、断面は「U」字形である。排水溝は東半部では直線的であるが、西半部ではやや蛇行している。

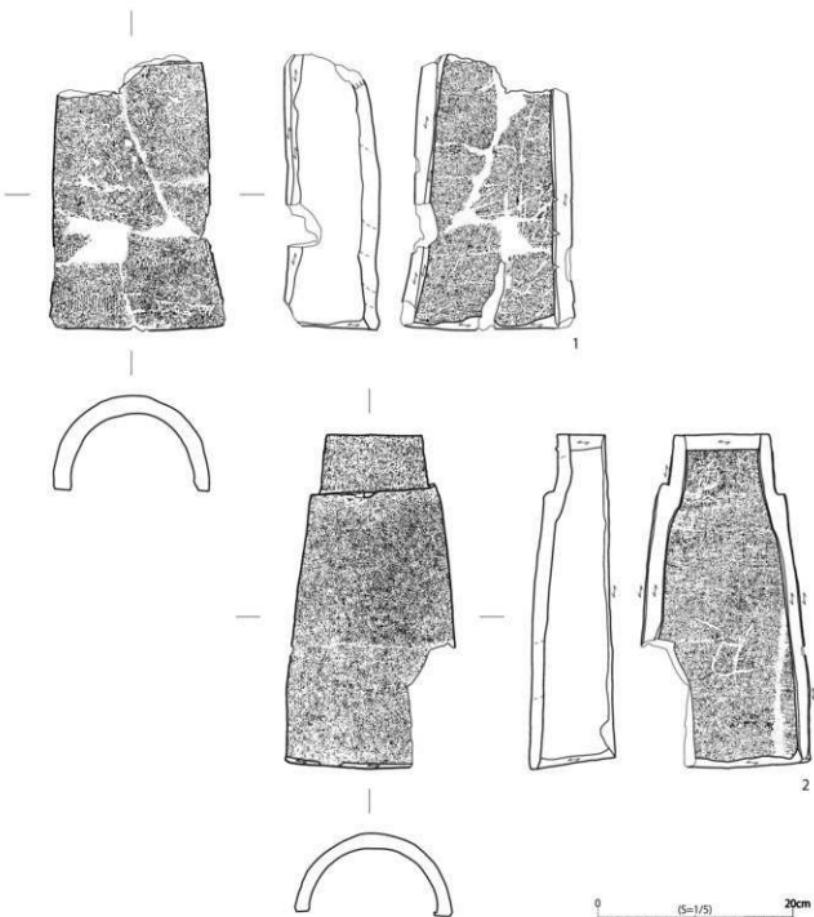
【堆積層】 大別 18 層、細別 42 層を確認した。大別 1 層：流入堆積層。大別 2 層：燃成部の窓体崩落層。大別 3 層：灰白色火山灰の流入堆積層。大別 4 層：瓦を多量に含む燃成部の窓体崩落層。大別 5 層：流入堆積層。大別 6 層：隔壁部の窓体崩落層。大別 7 層：流入堆積層。細別 14 層に灰白色火山灰ブロックをやや多量に含む。大別 8 層：燃焼部の窓体崩落層。大別 9 層：炭化物層。大別 10 層：燃焼部の窓体崩落層。大別 11 層：流入堆積層。



第60図 3号窯跡出土遺物(1)

大別 12層：E期の燃焼部・前庭部に広がる燃料残滓層。大別 13層：流入堆積層。大別 14層：C期の燃焼部・前庭部に広がる燃料残滓層。大別 15層：B期の前庭部・灰原に広がる燃料残滓層。大別 16層：A期の前庭部・灰原に広がる燃料残滓層。大別 17層：流入堆積層。大別 18層：灰原に広がる焼土層。

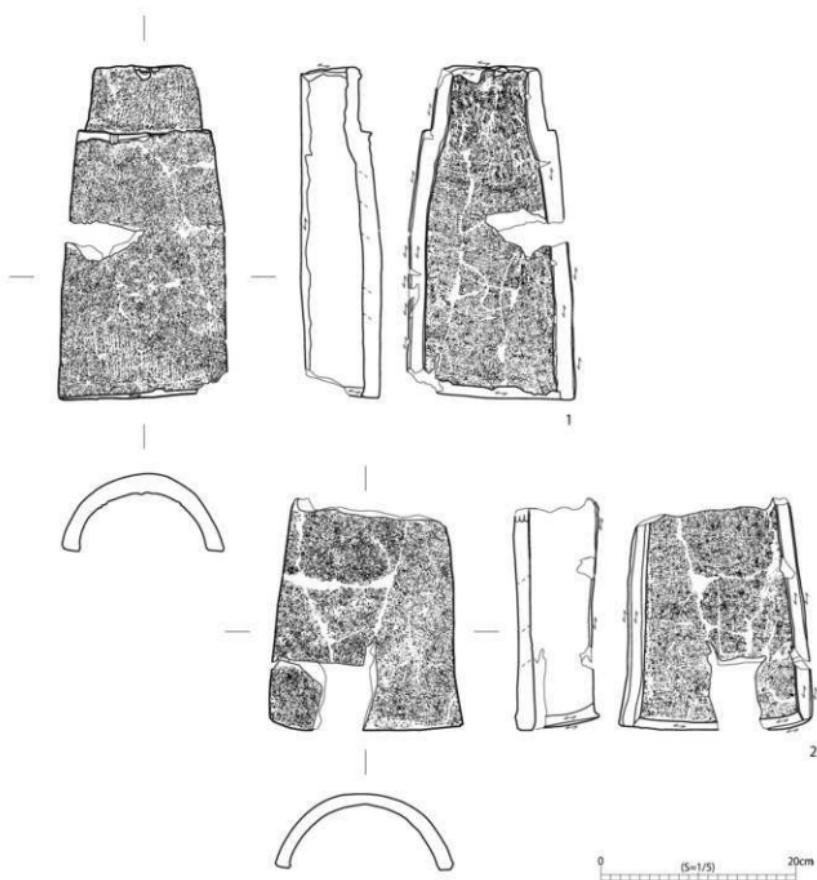
【 灰 原 】 前庭部の中軸線の延長上から、南西側に広がっている。範囲は、長さ 6.4m、幅 5.0m、厚さ 20～30cm の不整規円形である。堆積層は焼土・炭化物等の互層となっていた。灰原の堆積層は大別 16層～18



第61図 3号窯跡出土遺物(2)

層である。大別 16・18 層は焼土層であり、中間には窯体からの流出堆積層（大別 17 層）が認められる。

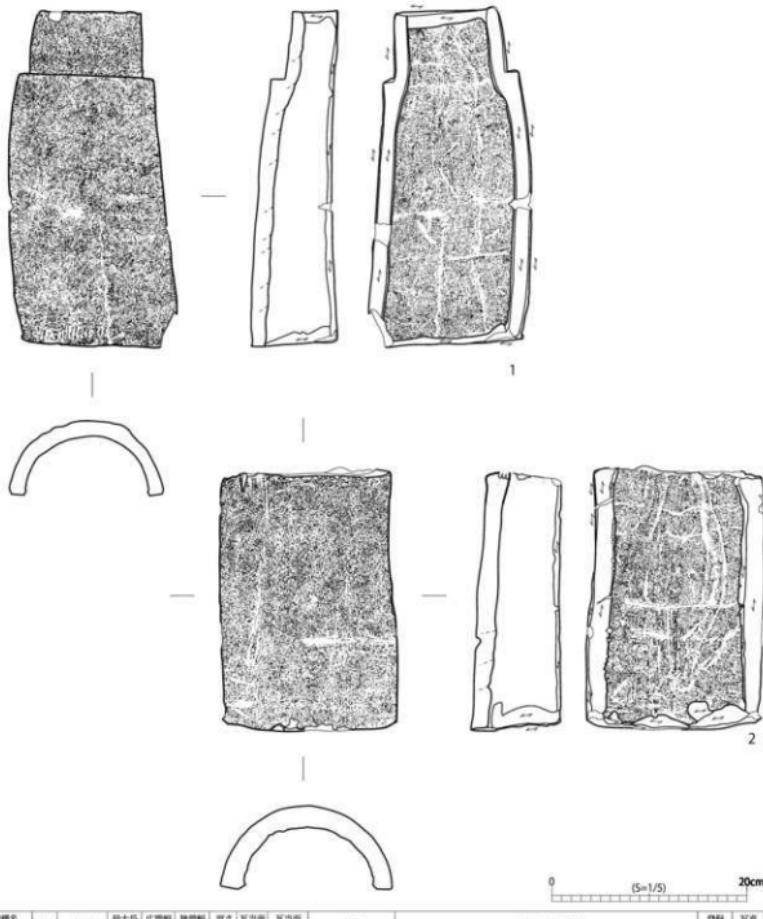
**【排水溝（3号溝）】** 窯の周囲には 3 号溝が窯体の西側の谷から北側を通り、東側から南側へ延びている。本窯跡に伴う排水溝と考えられる。溝の規模は、場所によって大きく異なっている。西側の谷から北側は幅 0.6 ~ 1.5m で、深さは検出面から 20cm である。北側から東側では、幅 1.3 ~ 1.8m で、深さは 25 ~ 30cm である。南側に屈曲する部分は、土坑状の落ち込みとなっている。さらに、南側に延びる部分では、幅 0.5 ~ 1.8m、深さは 30 ~ 60cm



第62図 3号窯跡出土遺物(3)

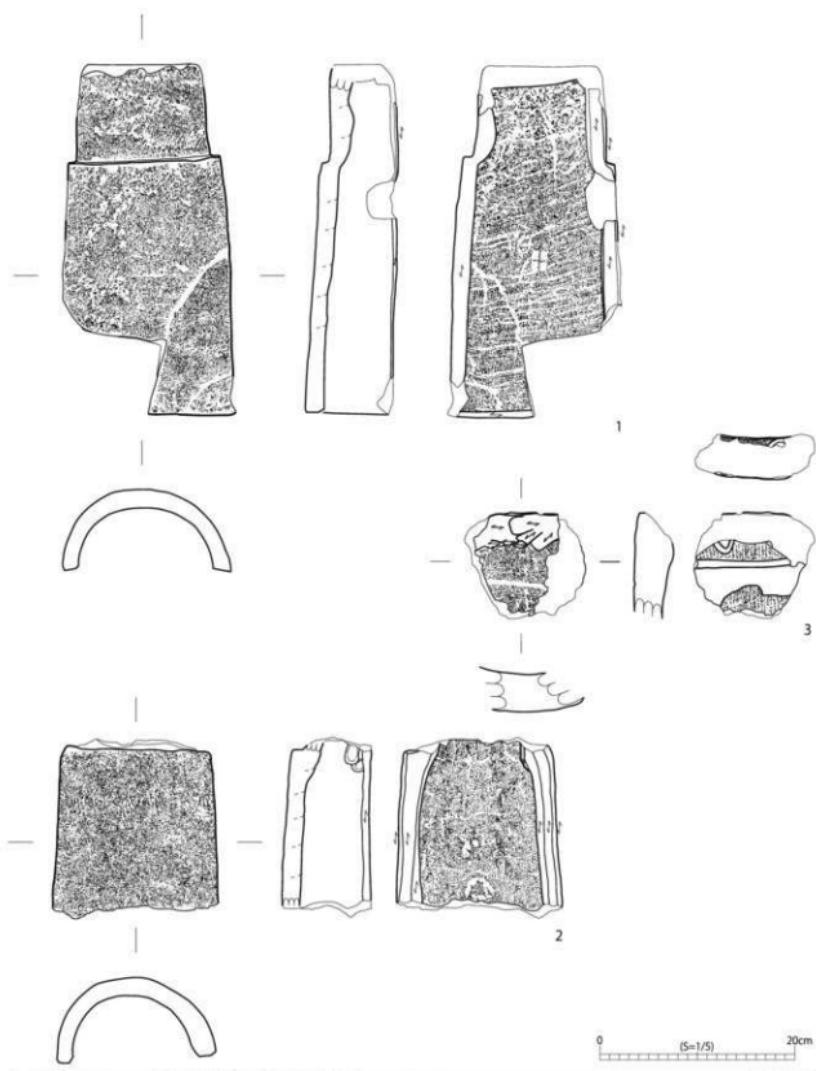
である。底面は、凹凸が認められず、焼成部から前底部を通る中軸線上付近を境として西側と南側に傾斜している。堆積層は、細別5層を確認した。すべて周囲からの流入堆積層である。

**【出土遺物】** 丸瓦・軒平瓦・平瓦・棟平瓦・鬼瓦及び、須恵器・土師器が出土している。総破片数は3821点で、81点を図示した。大別1層から丸瓦・平瓦・鬼瓦、大別2層から丸瓦・平瓦・須恵器・土師器、大別3層からは出土しておらず、大別4層から丸瓦・平瓦・鬼瓦・須恵器、大別5層からは出土しておらず、大別6層から丸瓦・軒平瓦・平瓦、大別7層から丸瓦・平瓦・須恵器・土師器、大別8層から丸瓦・軒平瓦・平瓦・棟平瓦・須恵器・土師器、大別9層から丸瓦・平瓦、大別10層から丸瓦・平瓦・棟平瓦、大別11層から丸瓦・平瓦・須



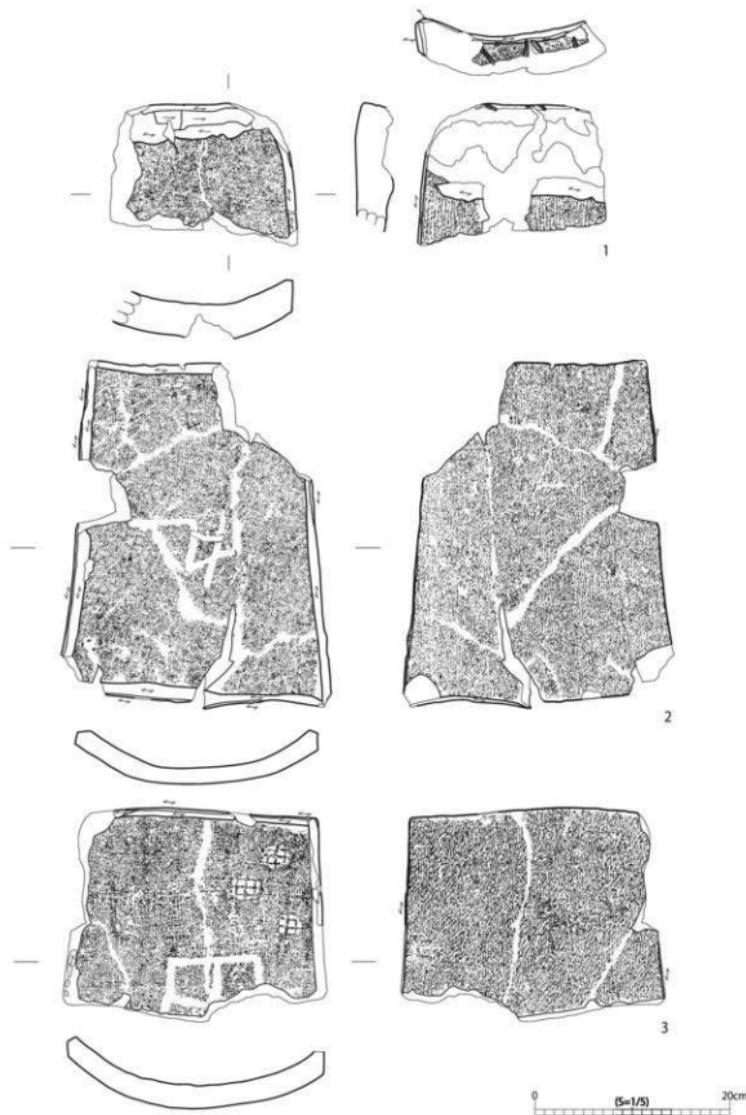
第63図 3号窯跡出土遺物(4)

恵器、大別12層から丸瓦・平瓦、大別13層から丸瓦・平瓦・須恵器、大別14層から平瓦、大別15層から丸瓦・平瓦、大別16層から丸瓦・平瓦・棟平瓦・土師器、大別17層から丸瓦・平瓦棟平瓦・鬼瓦・土師器が出土している。床面直上からは、出土していない。排水溝からは、丸瓦・平瓦・鬼瓦及び、土師器が出土している。鬼瓦は2・3層から出土している。



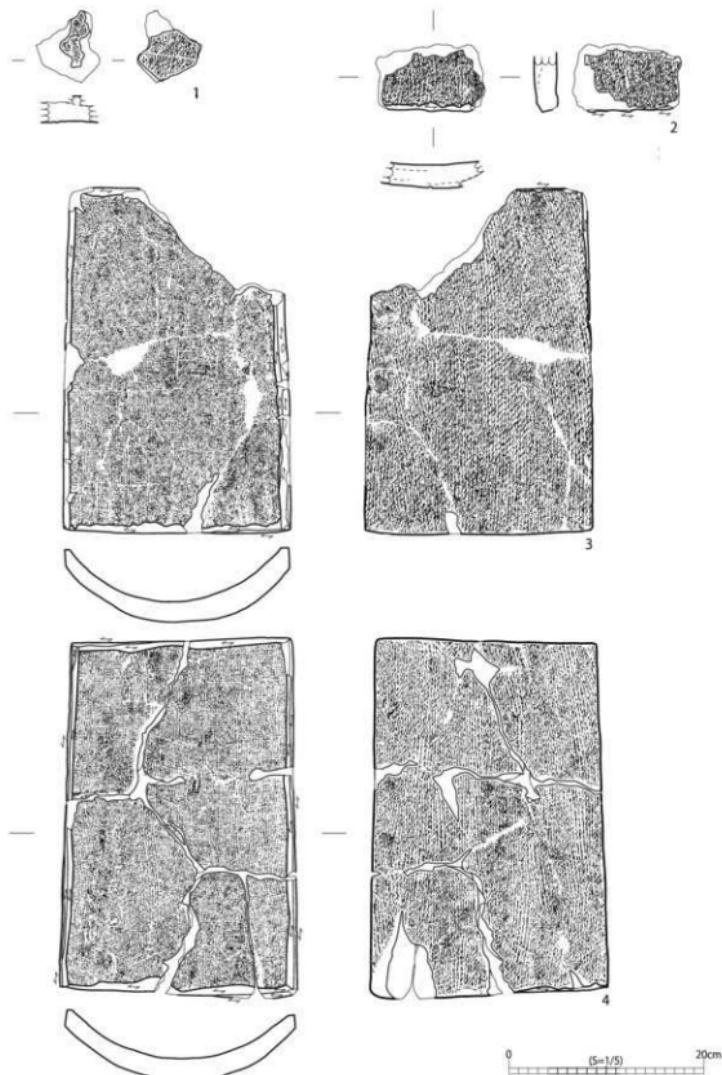
番号	遺物名 グリッド	解説	種別	最大長 (cm)	正面幅 (cm)	側面幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長×幅(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	式用・調整 参考		登録 番号	写真 番号
											正面	背面		
1	3号908	16	丸瓦	36.0 33.8 至13.7	8.9 15.4 至11.3	2.0 32.4	-	-	-	内面：7.5YR 7/4 背面：7.5YR 6/4	内面：粘土鉢底→右斜面 背面：縛印き→ロクロナデ 色調：ヘラケズリ	F-023	16-7 98	
2	3号908	16	丸瓦	18.4+ 至1.0+	-	14.6 2.4 至-	-	-	-	内面：10YR 5/1 背面：7.5YR 6/2	内面：粘土鉢底→右斜面+一部チダ、瓦底 背面：縛印き→ロクロナデ 色調：側面ヘラケズリ	F-024	17-1 101	
3	3号908	16	軒平瓦	10.8	5.6+	-	0.6+	-	-	瓦当面：7.5YR 6/1 側面：7.5YR 5/1 背面：10YR 5/1	瓦当面：ヘラケズリ→ヘラ引き洗練 側面：縛印き→ヘラ引き洗練 背面：布紋面→ヘラケズリ、ヘラ引き洗練	G-062	17-3	

第64図 3号窯跡出土遺物(5)



番号	遺構名 グリッド	断面	種別	最大長 (cm)	広場幅 (cm)	狭場幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 径(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 参考	登録 番号	写真 番号
1	3号窯跡	12	軒平瓦	13.6-	10.7-	-	3.7	2.4	-	真当面: 10Y8V5/1 凹面: 7.5Y5/1 凸面: 10Y8V5/1	真当面: ハラケズリ→ハラケズリ改線 凹面: 布目刷→一部ハラケズリ 凸面: 織目刷→一部ハラケズリ 断縫: 断面ハラケズリ	G-063	17-2
2	3号窯跡 3号窯跡周辺	38	平瓦	35.7	21.7 (28.5)	12.4 (22.3)	2.3	-	-	凹面: 10YR 6/1 凸面: 10YR 6/1	成形: 細引り板→布目刷 調整: ハラケズリ	G-064	17-4 103
3	3号窯跡 瓦張	38	平瓦	22.0-	-	20.8 (25.0)	2.5	-	-	凹面: SYR 6/3 凸面: 布目刷 瓦張: 織目刷→一部ナメ 瓦張: 錐削→脱脂泥ヘラケズリ 瓦張: 井印●×3 凹面: ヘラ書き「丸」	成形: 調整: ナメ 凹面: ヘラ書き「丸」	G-065	17-7 100

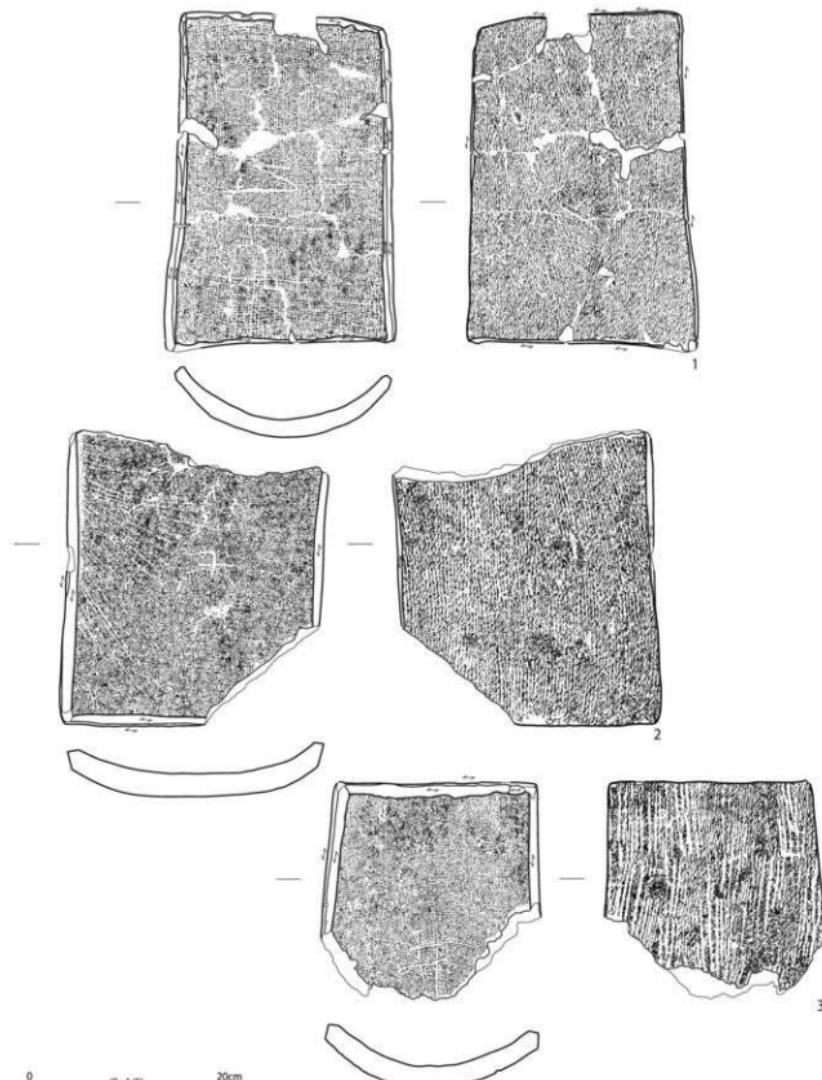
第65図 3号窯跡出土遺物(6)



第66図 3号窯跡出土遺物(7)

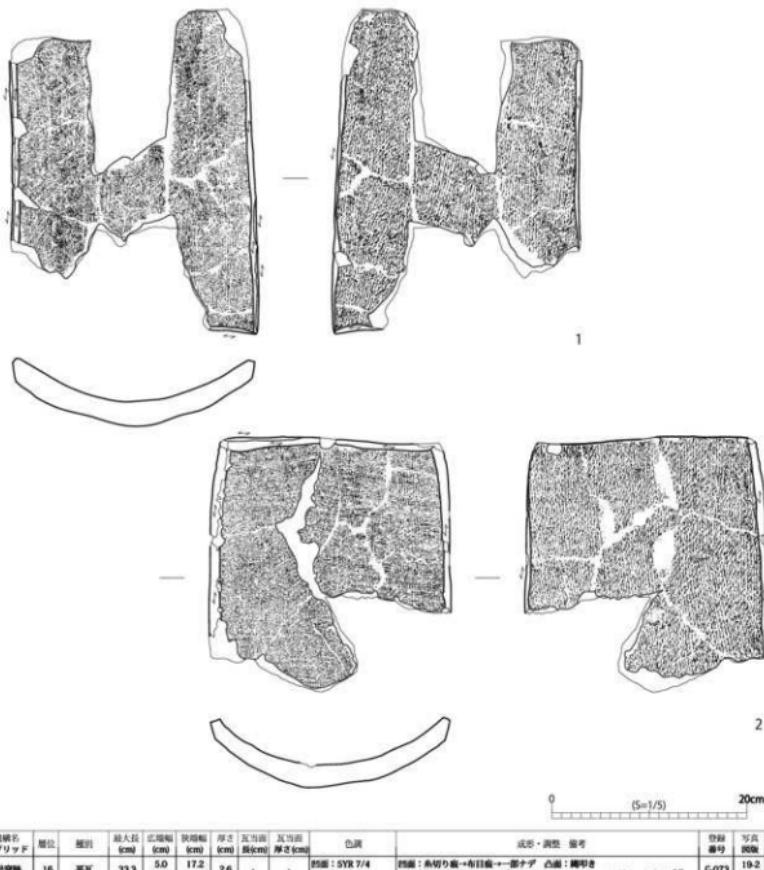
- A -

番号	遺構名 グリッド	部位	種別	最大長 cm	正面幅 cm	側面幅 cm	厚さ cm	真当面 長(cm)	反当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整・備考			写真 番号
											四面：布日壺 内面：縛取き 断面：たらこ粘土貼り合せ縫	四面：ヘラ書き「大」	G-060 103	17-5 103
1 3号窯跡	29	平瓦	陶器	7.3+	6.6+	-	2.6	-	-	四面：2.5Y 4/1 凸面：2.5R 4/1	四面：縛取き→布日壺	四面：布日壺 内面：縛取き	G-067 103	17-6 103
2 3号窯跡	16	平瓦	陶器	6.9+	7.0+	-	2.3	-	-	四面：7.5YR 6/3 凸面：7.5YR 6/2	四面：布日壺 内面：縛取き	四面：たらこ粘土貼り合せ縫	G-067 103	17-6 103
3 3号窯跡	20	平瓦	陶器	35.4	23.3	5.1 (22.0)	2.6	-	-	四面：7.5YR 6/3 凸面：7.5YR 7/4	四面：糸切り面→布日壺→一部ナデ 凸面：縛取き→一部ナデ 四面：ヘラ書き	四面：たらこ粘土貼り合せ縫	G-068 105	17-8 105
4 3号窯跡	17	平瓦	陶器	36.8	24.4	22.5	2.4	-	-	四面：7.5YR 6/4 凸面：7.5YR 6/4	四面：糸切り面→布日壺 中央にカギ爪状工具縫 凸面：縛取き 縫縫：ヘラ書き	四面：ヘラ書き「しあ」	G-069 105	18-1 105



第67図 3号窯跡出土遺物(8)

番号	遺物名 ブリッド	層位	概形	肩大長 [cm]	広端幅 [cm]	狭端幅 [cm]	厚さ [mm]	其当面 残さむ	瓦当面 残さむ	色調	成形・調整・参考			登録 番号	写真 番号
											内面：SYR 6/3 背面：ヘラ書き「X」	内面：SYR 6/3 背面：ヘラ書き「X」	内面：SYR 6/3 背面：ヘラ書き「X」		
1 3号窯跡	16	平瓦	34.9	23.3	20.4	2.0	-	-	-	内面：SYR 6/3 背面：ヘラ書き「X」	内面：SYR 6/3 背面：ヘラ書き「X」	内面：SYR 6/3 背面：ヘラ書き「X」	G-070	18-2 105	
2 3号窯跡	16	平瓦	30.4	14.5	-	2.5	-	-	-	内面：SYR 6/3 背面：ヘラ書き「X」	内面：SYR 6/3 背面：ヘラ書き「X」	内面：SYR 6/3 背面：ヘラ書き「X」	G-071	18-3 104	
3 3号窯跡	16	平瓦	22.4	-	20.6	2.3	-	-	-	内面：SYR 5/2 背面：SYR 5/2 背面：側面・狭端面ヘラケズリ	内面：SYR 5/2 背面：SYR 5/2 背面：側面・狭端面ヘラケズリ	内面：SYR 5/2 背面：SYR 5/2 背面：側面・狭端面ヘラケズリ	G-072	19-1 101	



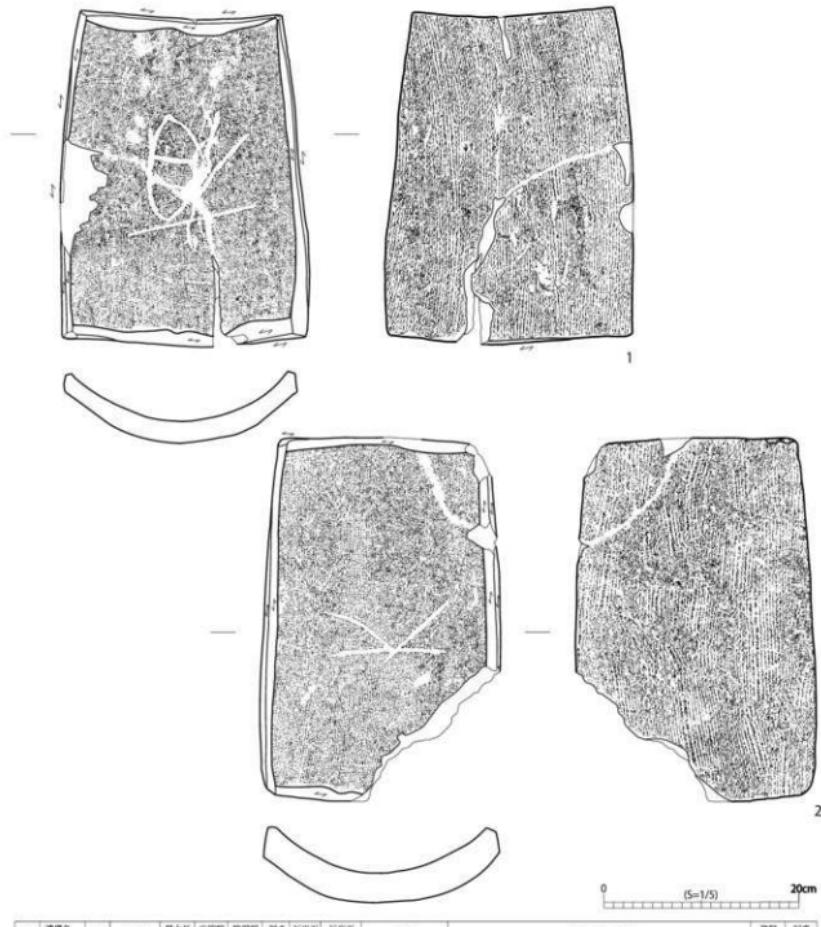
第68図 3号窯跡出土遺物(9)

## 【整地層・Ⅲ層黒色化部分の調査】(第57・58回)

窯跡は現状保存となり、整地層・Ⅲ層黒色化部分の調査は窯体を断ち割っていない。窯体を保存するために都市計画道路の設計が変更され、本窯跡の東西に橋脚が設置されることになり、窯体周囲の土層の調査を実施したが、工事の影響を受けるⅢ層被熱範囲の外側のみを調査対象としたため、窯体・掘方・整地層・Ⅲ層黒色化部分相互の関係は明確には把握できなかった。

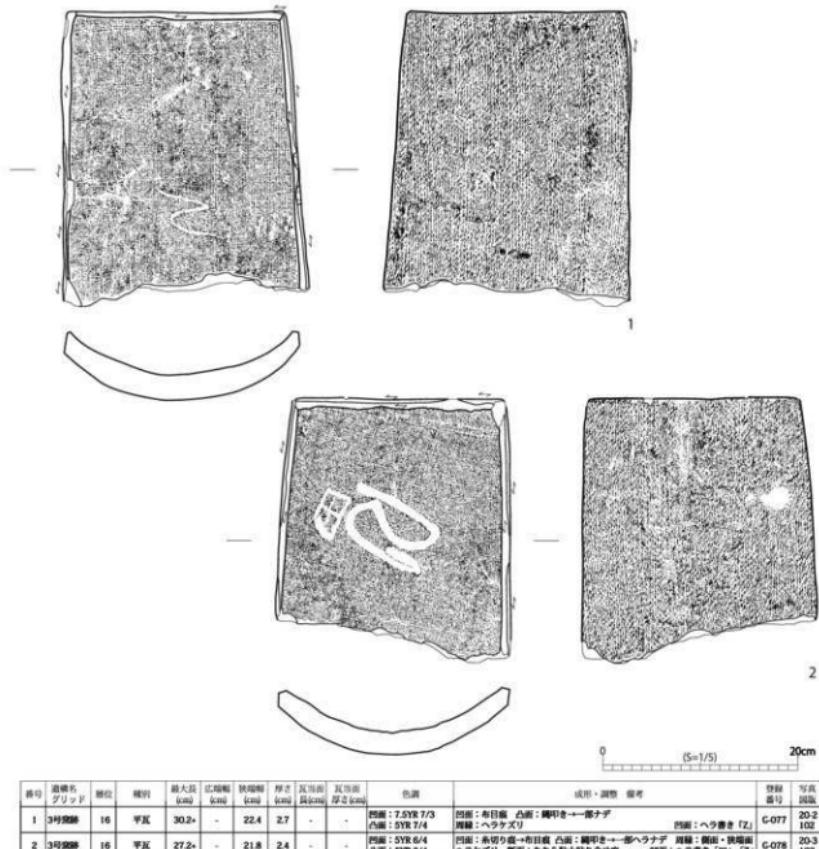
橋脚は窯体の東側と西側に敷設されることから、橋脚間の四辺のうち東側を除く三辺に①～③トレンチ、焼成部から前底部を通す中軸延長線上に④トレンチ、②トレンチにそれぞれ直交する⑤トレンチ、焼成部・隔壁部・燃焼部に直交する南北方向に⑥～⑧トレンチを設定した。整地層H・K・Mは、トレンチを設定せず単体で調査した。

①トレンチ：Ⅲ層を確認した。



第69図 3号窯跡出土遺物(10)

- ② トレンチ：整地層Aと、その下部のⅢ層黒色化部分を確認した。
- ③ トレンチ：Ⅲ層黒色化部分および、Ⅲ層を確認した。
- ④ トレンチ：整地層Fと、その下部のⅢ層黒色化部分を確認した。
- ⑤ トレンチ：Ⅲ層黒色化部分および、Ⅲ層を確認した。
- ⑥ トレンチ：整地層J・Lと、その下部のⅢ層黒色化部分を確認した。
- ⑦ トレンチ：整地層Jと、その下部のⅢ層黒色化部分を確認した。



第70図 3号窓跡出土遺物(11)

⑧トレンチ：整地層Iと、その下部のⅢ層黒色化部分を確認した。

**整地層A**：前底部の堆積層除去後に確認した。範囲は、長軸 80cm、短軸 50cm、厚さ 10cm の不整形円形である。

下面是平坦である。にぶい黄褐色砂質シルトの單一層で、Ⅲ層を覆う。

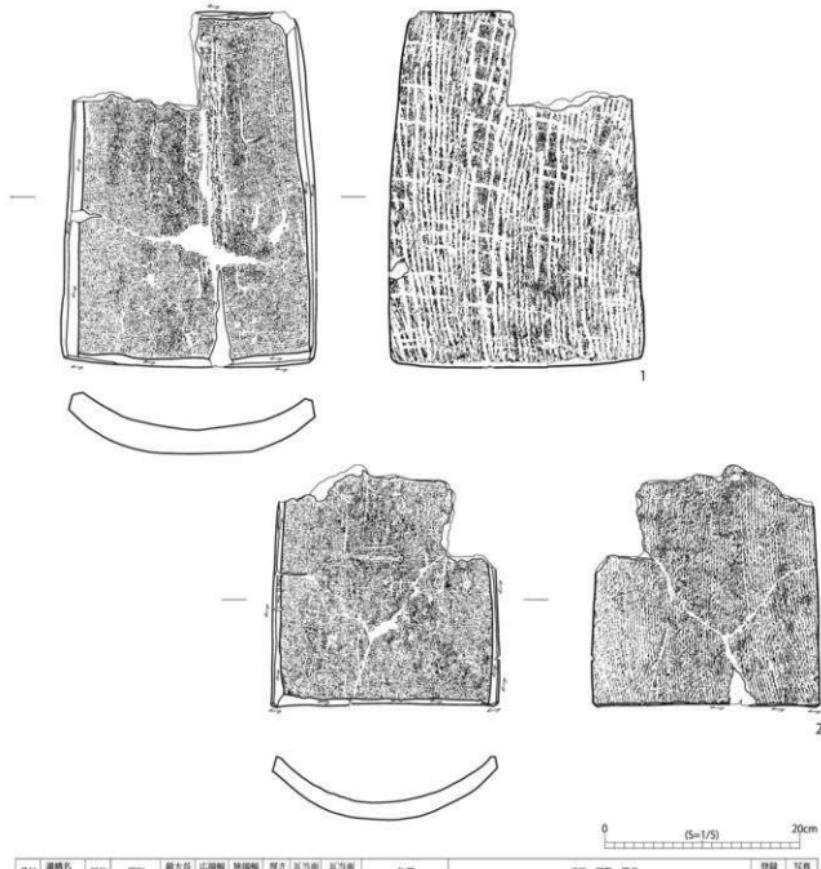
**整地層B**：前底部の堆積層除去後に確認した。範囲は、長軸 1m、短軸 50cm、厚さ 10cm の不整形である。下面是凹凸がみられる。にぶい黄褐色砂質シルトの單一層で、Ⅲ層を覆う。

**整地層C**：前底部の堆積層除去後に確認した。範囲は、長軸 1.1m、短軸 50cm、厚さ 10cm の不整形である。下面是ほぼ平坦である。にぶい黄褐色砂質シルトの單一層で、Ⅲ層を覆う。

**整地層D**：南側は前底部の堆積層除去後に確認した。範囲は、長軸 2.5m、短軸 1.6m、厚さ 30cm の不整形である。下面是やや凹凸がみられる。明黄褐色砂質シルトの單一層で、Ⅲ層黒色化部分を覆う。

**整地層E**：南側は灰原の堆積層除去後に確認した。範囲は、長軸 2.1m、短軸 1.7m、厚さ 20cm の不整形である。

下面是ほぼ平坦である。明黄褐色砂質シルトの單一層で、Ⅲ層黒色化部分を覆う。



第71図 3号窯跡出土遺物(12)

**整地層 F**:範囲は、長軸 1.9m、短軸 20cm、厚さ 10cm の不整形である。下面是凹凸がみられる。にぶい黄褐色砂質シルトとにぶい黄橙色砂質シルトの互層で、Ⅲ層を覆う。

**整地層 G**:範囲は、長軸 2.1m、短軸 1.6m、厚さ 20cm の不整形である。下面是凹凸が顕著にみられる。淡赤橙色砂質シルトの単一層で、Ⅲ層を覆う。

**整地層 H**:平面でのみ確認した。範囲は、長軸 80cm、短軸 50cm の楕円形である。にぶい黄褐色砂質シルトの層で、Ⅲ層を覆う。

**整地層 I**:範囲は、長軸 2.5m、短軸 50cm、厚さ 50cm の不整形である。下面是平坦である。3層に細分され、1層は明黄褐色砂質シルト、2・3層はにぶい黄褐色砂質シルトで、Ⅲ層を覆う。断面の形状から 3号窯



第72図 3号窯跡出土遺物(13)

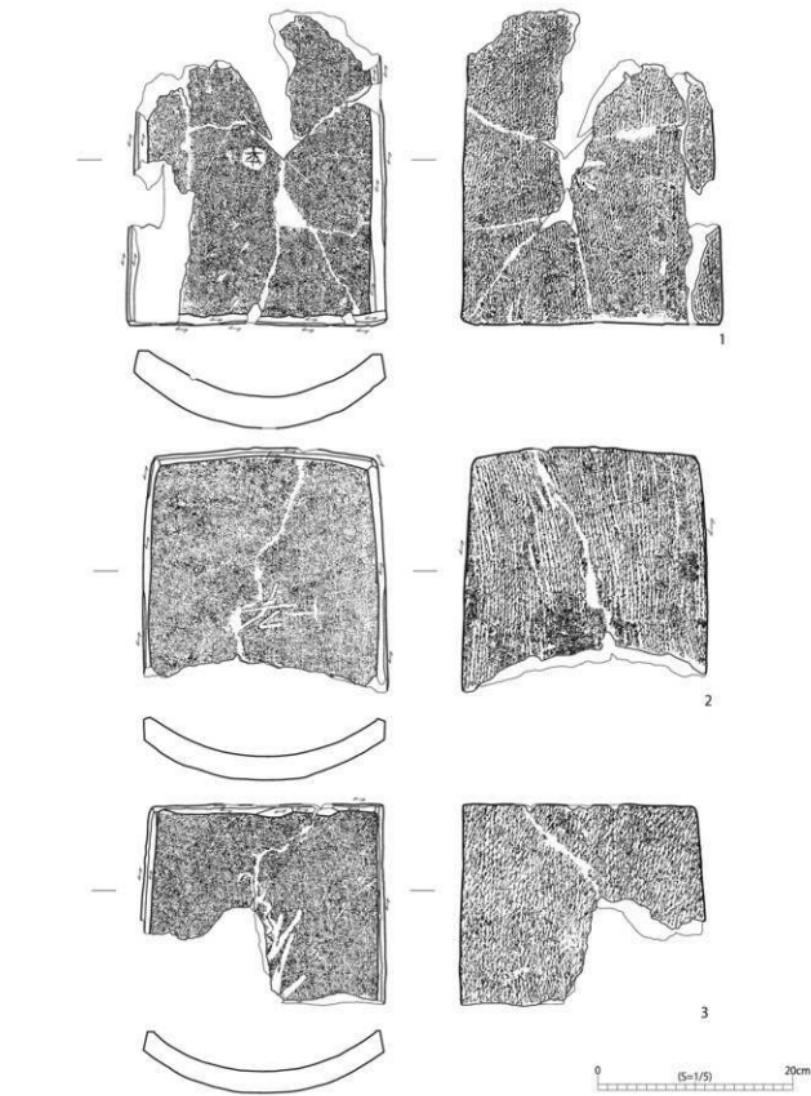
跡の掘方埋土およびその上面の整地である可能性がある。

**整地層 J**:範囲は、長軸 2.1m、短軸 40cm、厚さ 10cm の不整形である。下面是平坦である。褐色砂質シルトの単一層で、Ⅲ層黒色化部分を覆う。

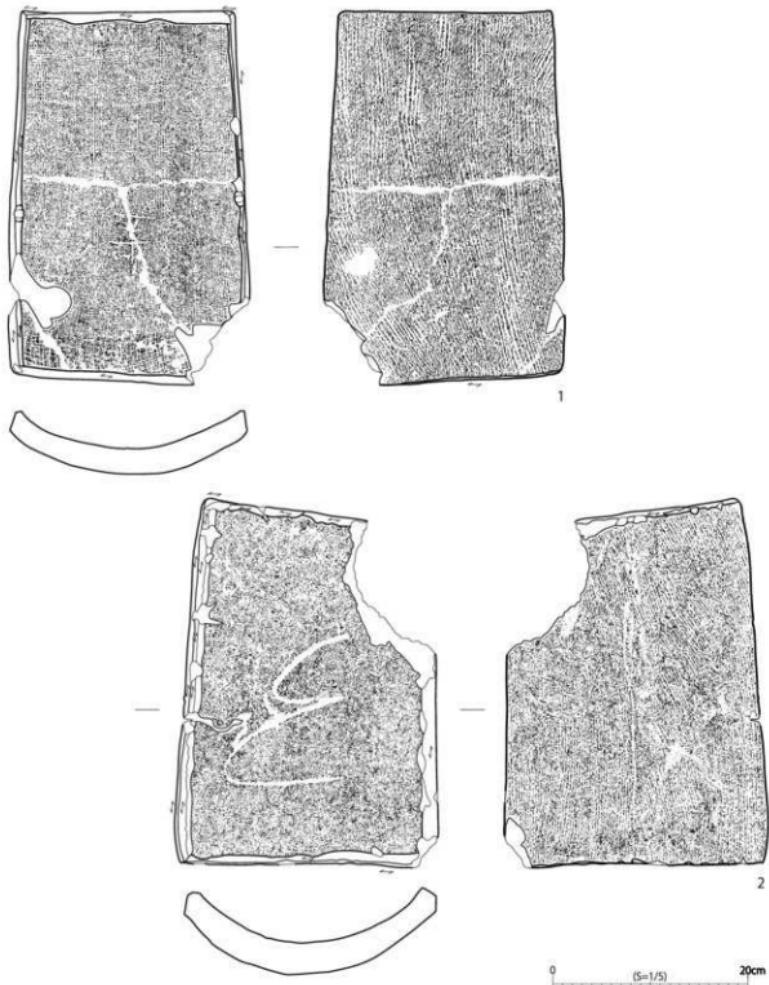
**整地層 K**:平面でのみ確認した。範囲は、長軸 2.2m、短軸 1.0m の不整梢円形である。にぶい黄褐色砂質シルトの層で、Ⅲ層を覆う。

**整地層 L**:範囲は、長軸 4.2m、短軸 30cm、厚さ 20cm の不整形である。下面是ほぼ平坦である。にぶい黄褐色砂質シルトの単一層で、Ⅲ層黒色化部分を覆う。

**整地層 M**:平面でのみ確認した。範囲は、長軸 2.6m、短軸 60cm の不整形である。にぶい黄褐色砂質シルトの層で、Ⅲ層を覆う。



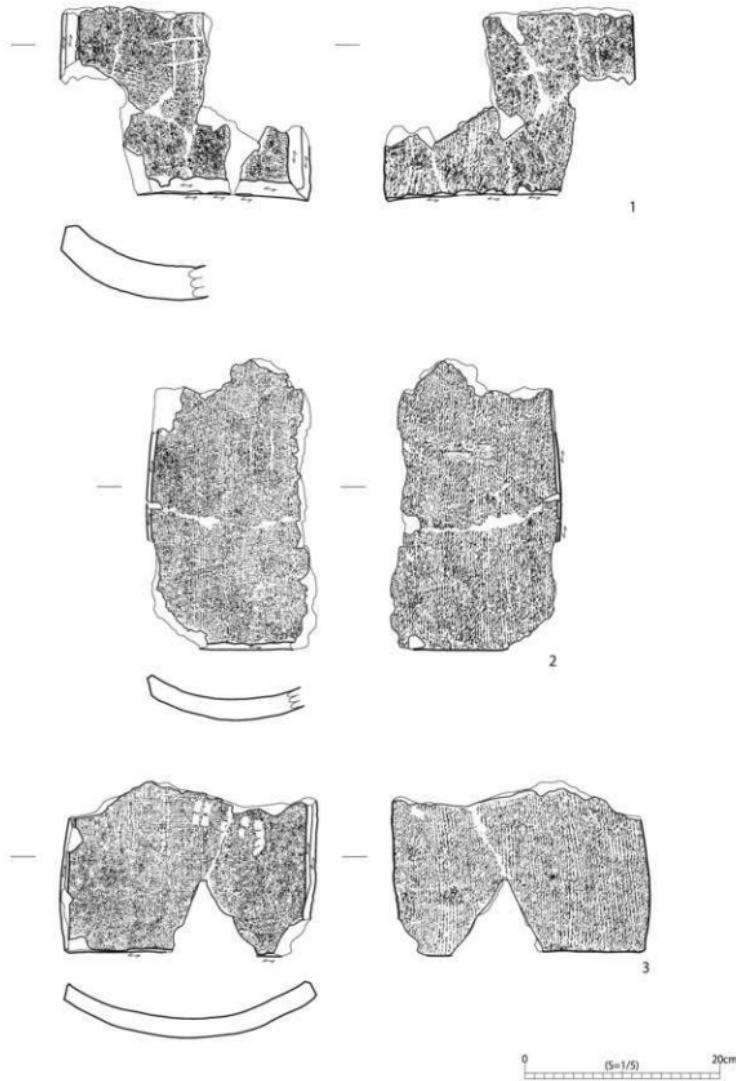
第73図 3号窯跡出土遺物(14)



第74図 3号窯跡出土遺物(15)

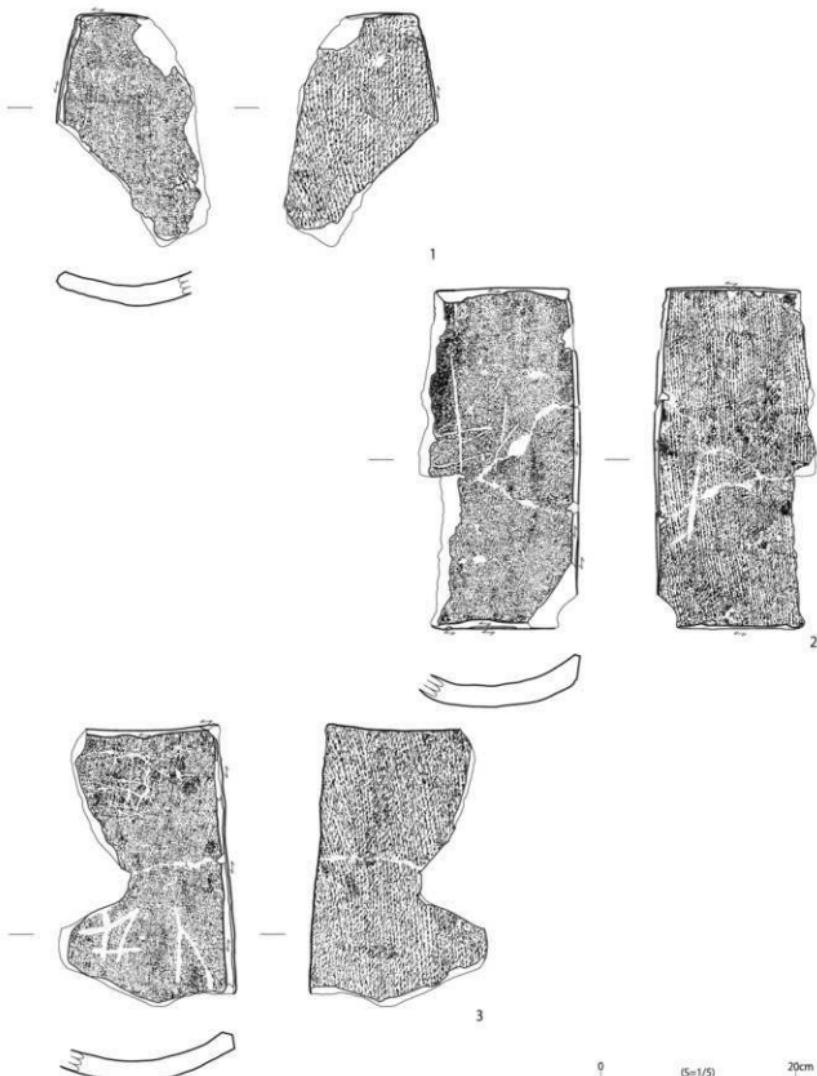
## 4号窯跡 (SO4) (第 86 ~ 89 図・第 6 表)

**【確認状況】** 調査区北部の南側斜面、D-5・6 グリッドに位置する。Ⅲ層上面で確認した。残存状態は良好で、焼成部・燃焼部・前底部・灰原を確認した。本窯跡に伴う灰原の西側上部を、5号窯跡に伴う灰原が覆っており、5号窯跡よりも古い。本窯跡と、西側に隣接する5号窯跡の窯体との間隔は 2.85m である。本窯跡はⅢ層を掘り込み、

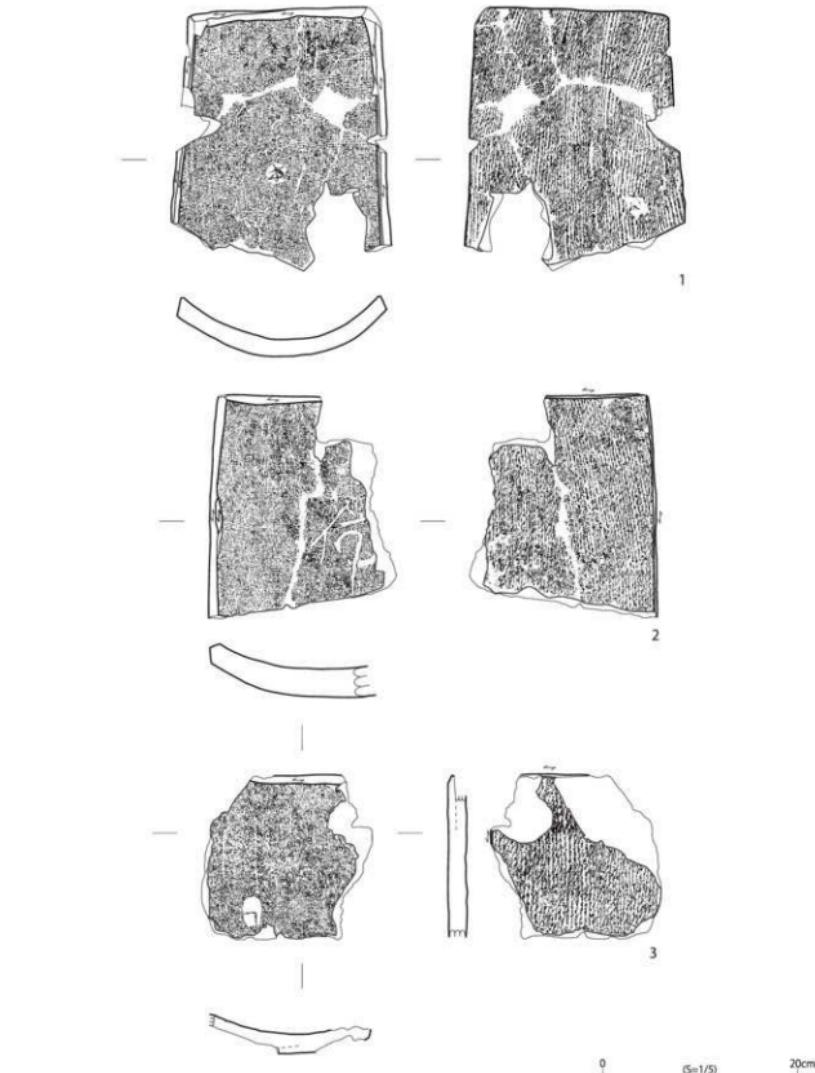


第75図 3号窯跡出土遺物(16)

番号	遺構名 グリッド	部位	種別	最大径 [cm]	広場幅 [cm]	狭場幅 [cm]	厚さ [cm]	瓦当面 長[cm]	瓦当面 厚さ[cm]	色調	成形・調型・備考			登録 番号	写真 番号
											内面	背面	側面		
1 3号窯跡	Ra	平瓦	板瓦	19.9 (25.2)	15.4 (25.2)	-	3.5 -	-	-	内面：SYR 7/3 背面：板瓦→一部ハラナデ 側面：三面ハラナデ	縫中引き→一部ハラナデ 内面：ヘラ書き「井」	内面：縫中引き→一部ハラナデ 内面：ヘラ書き「井」	G-088 101	22-1 101	
2 3号窯跡	Ra	平瓦	板瓦	29.0 (27.2)	9.5+ (9.2)	-	2.2 -	-	-	内面：SYR 7/3 背面：板瓦→一部ナデ 側面：三面ハラナデ	縫中引き→一部ナデ 内面：ヘラ書き「井」、「X」	内面：縫中引き→一部ナデ 内面：ヘラ書き「井」、「X」	G-089 102	22-2 102	
3 3号窯跡	Ra	平瓦	板瓦	17.9 (26.0)	22.4 (26.0)	-	2.0 -	-	-	内面：SYR 6/2 背面：各切口板→一部ナデ 側面：三面ハラナデ	縫中引き 内面：縫中引き→一部ナデ 内面：ヘラ書き「井」	内面：縫中引き 内面：縫中引き→一部ナデ 内面：ヘラ書き「井」	G-090 98	23-4 98	



第76図 3号窯跡出土遺物(17)



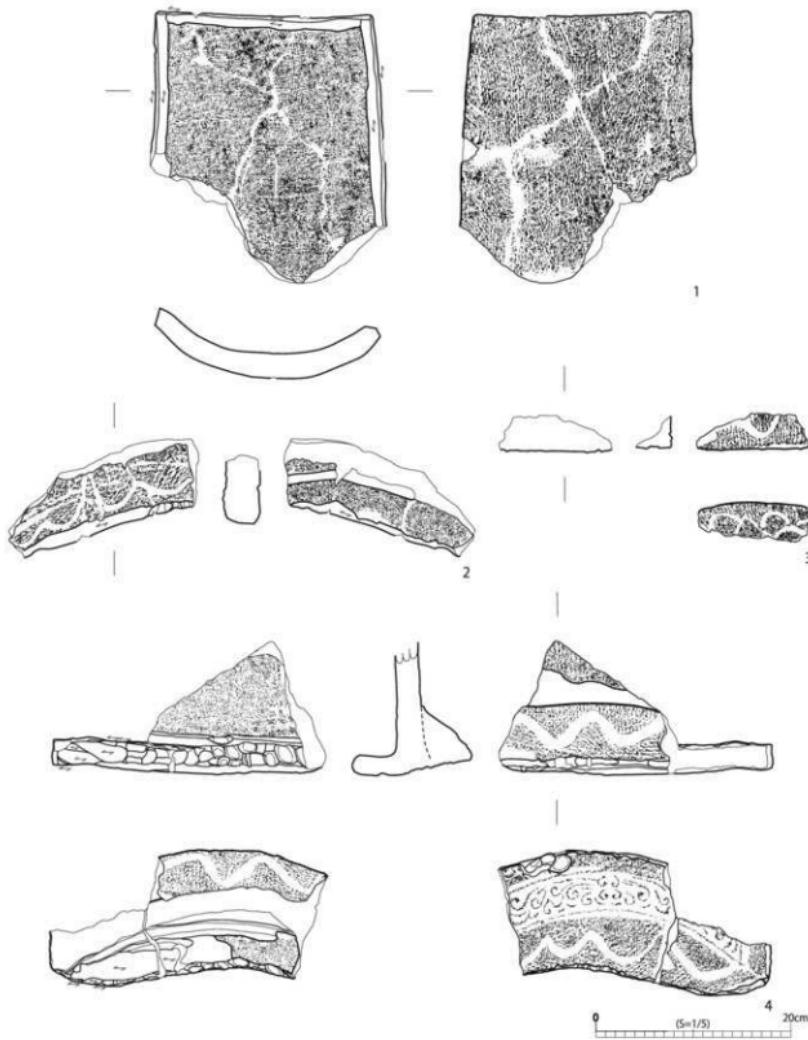
第77図 3号窯跡出土遺物(18)

番号	遺構名 グリッド	部位	種別	最大長 (cm)	正面幅 (cm)	背面幅 (cm)	厚さ (cm)	裏当面 長さ(cm)	裏当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整・備考			標本 番号	写真 番号
											前面	背面	側面		
1 3号窯跡	Ra	平瓦	27.0+	-	18.3 (19.0)	2.0	-	-	-	褐色	10Y 4/3 凸面: 布目模、凹面: 滾印模 側面: 側面・扶壁面へラケズリ	側面: 布目模、凹面: 滾印模 側面: 側面・扶壁面へラケズリ	側面: 布目模、凹面: 滾印模 側面: 側面・扶壁面へラケズリ	G-094	24-1 99
2 3号窯跡	Ra	平瓦	23.0+	-	9.6+	3.0	-	-	-	褐色	2.5Y 4/1 凸面: 布目模、凹面: 滾印模 側面: 側面・扶壁面へラケズリ	側面: 布目模、凹面: 滾印模 側面: 側面・扶壁面へラケズリ	側面: 布目模、凹面: 滾印模 側面: 側面・扶壁面へラケズリ	G-095	24-3 103
3 3号窯跡	7	平瓦	16.9+	-	9.1+	2.0	-	-	-	褐色	7.5YR 7/3 凸面: 布目模、凹面: 滾印模 側面: たらたら粘土貼り合せ模	側面: 布目模、凹面: 滾印模 側面: たらたら粘土貼り合せ模	側面: 布目模、凹面: 滾印模 側面: たらたら粘土貼り合せ模	G-096	24-2 100



番号	遺物名 グリッド	層位	種別	縦長径 [cm]	正規幅 [cm]	鉄錆幅 [cm]	厚さ [cm]	瓦当面 長さ[cm]	瓦当面 厚さ[cm]	色調	成形・調整 検考			骨格 番号	写真 図版
											凹面	凸面	調査		
1	3号9088	7	平瓦	24.0+	16.2+	-	2.8	-	-	肉眼：赤褐色→茶目板 凹面：鏡印き 内面：10YR 6/3 凸面：10YR 6/2 鉄錆：側面へラケツリ	凹面：神田田中	凸面：鏡印き	調査：側面へラケツリ	G-097	24.4 99
2	3号9088	1	平瓦	8.3+	7.3+	-	2.7	-	-	肉眼：布目板 自然端 凹面：鏡印き 側面 内面：7.5YR 5/1 凸面：7.5YR 5/1 鉄錆：側面へラケツリ	凹面：鏡印き	凸面：側面へラケツリ	調査：側面へラケツリ	G-098	24.5
3	3号9088	1	平瓦	22.0+	-	4.1+	2.8	-	-	肉眼：赤褐色→茶目板 凸面：鏡印き 内面：2.5YR 5/1 凸面：2.5YR 5/1 鉄錆：側面へラケツリ	凹面：鏡印き	凸面：側面へラケツリ	調査：側面へラケツリ	G-099	24.6 103
4	3号9088	1	平瓦	37.3	25.1	18.1 (23.2)	2.6	-	-	肉眼：赤褐色→茶目板 凸面：鏡印き→一部チリ 内面：SYR 6/4 凸面：SYR 7/4 鉄錆：ヘラケツリ	凹面：鏡印き	凸面：ヘラケツリ	調査：側面へラケツリ	G-100	24.8 98

第78図 3号窯跡出土遺物(19)



番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	正面幅 (cm)	裏側幅 (cm)	厚さ 長( cm )	裏当面 長( cm )	裏当面 厚さ( cm )	色調	成形・調整 備考	物群 番号	写真 番号
1	3号窓跡	1	平瓦	27.8+	-	21.7	2.7	-	-	表面: N 5/0 裏面: N 5/0	裏当面: 手切り端→毎日削、凸面: 磨印付き→一部ナデ 裏当面: ヘラケズリ	G-101	24-7 101
2	3号窓跡 瓦頭	38	横平瓦	3.3+	17.5+	-	-	9.8-6-	9.3-	表面: 10YR 5/1 裏面: 7.5YR 5/1	裏当面: ハケ切き→凹 裏面: ハケメヘラナデ→接着面ユビナデ、下端面ヘラケズリ、庄面	H-004	25-3
3	3号窓跡 瓦頭	39	横平瓦	3.7+	11.5	-	-	3.5+	3.7+	表面: 10YR 5/1 裏面: 5YR 5/1	裏当面: ハケ切き→一部ナデ→少しき抜状文 裏面: ハケメヘラナデ→接着面ユビナデ、庄面	H-005	25-2
4	3号窓跡	20	横平瓦	13.5+	19.0+	-	2.4	12.3	2.0	表面: 2.5Y 5/1 裏面: 2.5Y 4/1	裏当面: ハケ切き→凹、ヘラ書き状文。上、下端面庄面 裏面: ハケメヘラナデ→接着面ユビナデ→ヘラケズリ 表面: ハセナシ 裏面: ハセナシ	H-006	25-4

第79図 3号窓跡出土遺物(20)